麻原彰晃の
真理探究シリーズ①

人類進化の鍵をにぎる
究極の瞑想状態

検証 サマディ「死」

真理科学技術研究所編
真理の御魂(みたま) 最聖 麻原彰晃尊師 監修

THE SAMADHI

お詫びと訂正

本書の一部に誤りがありましたので、深くお詫びするとともに、以下のように訂正させていただきます。

142ページの最終行から143ページの一行目にかけての部分、

「まさににになったのではないかと考えられます。」

を次のように訂正いたします。

「まさに完全な証明とはいえないけども、それに近い証明になったのではないかと考えられます。」

麻原彰晃の
真理探究シリーズ①

人類進化の鍵をにぎる
究極の瞑想状態

検証 サマディ「死」

真理科学技術研究所編
真理の御魂（みたま） 最聖 麻原彰晃尊師 監修

はじめに

宗教と科学。この２つは一見まったく相容れないもののように見える。宗教は漠然とした直感と完全なる主観的精神主義の世界。科学は実験に裏づけられた厳密な客観的唯物主義の世界。確かに、この２つは対照的に見える。

しかし、この宗教と科学の目的を考えたとき、わたしたちは一つのことに気づく。その一つのこととは、宗教と科学が共通の目的を背景に存在しているということである。そして、その目的とは「真理を探究すること」である。

宗教も科学もそれらが何かと考えたとき、この世界の様々な現象に対する解釈、つまり、世界観であるといえる。わたしたちは通常あらゆる現象を目撃するが、その根底にあるその現象をもたらしている「何か」を知らない。わたしたちは根底にある「何か」が引き起こす幻影を見ている。そして、そうした多様な現象の裏に潜む普遍的法則、「真理」を見いだすために、日々、宗教家は瞑想と思索を行ない、科学者は実験と観察を繰り返す。

例えば、宗教家は修行し瞑想によって得たヴィジョン、つまり、自分自身の世界観を教義という法則、「真理」として表現する。また、物理学の中の、例えば、力学は物体の動きを抽象化して方程式――物体の動きの裏に潜む法則――に表わし、それによって現象をある程度説明できることが証明されれば、その方程式は一つの「真理」となる。

このように、彼らは「真理」を探究し、瞑想、または、実験によって独自の世界観を確立する。用いる手段が異なるだけで彼らの「真理」に到達するという目的は同じなのである。

そして、その対照的な性格により歴史上この２者は互いに攻撃し合い、対立を続けてきた。

しかし、この対立する２者が協力して「真理」を探究したとしたらど

うなるだろうか。「真理」はより明確にわたしたちの前に立ち現われてくるに違いない。

そこで、オウム真理教では「真理」を探究するために宗教と科学を統合し、仏典の記載事項や修行者たちの瞑想体験を科学によって検証し、証明しようと試みたのである。そして、様々な実験データに基づいて製作されたのがこの「真理探究」なのである。

麻原尊師の鋭いインスピレーションと科学的論理性によって作り上げられたこの「真理探究」によって、あなたの宗教観は根底から覆されるであろう。

「真理探究」について

今、ロシアの宗教界に大きな波紋を投げかけているのが、オウム真理教の話題のテレビ番組、「Постижение Истины（パスティジイエニイエ イースティヌゥイ 真理探究）」。この番組は92年の11月から、モスクワ近郊約2000万人に向けて、ロシアのテレビ局「ツー・バイ・ツー」で放映され、白ロシア共和国やモルドバ共和国でも放送されています。毎回、解脱者の奇跡、スーパーパワーを科学的に証明した実験などを紹介し、これについて麻原尊師と科学者でもある弟子たちが話を進めていく対談形式の番組です。

本書「麻原彰晃の真理探究シリーズ」は、このモスクワで大人気のテレビ番組をもとに作成されました。人気の理由は、修行によって到達できる〝解脱〟という特別な状態を科学的に証明しきっているという点にあるようです。

出演者プロフィール

真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師

国内のみならず、広く海外に支部を持つオウム真理教の開祖。仏教・ヨーガによって様々な神秘的力を身につけられ、1986年、ヒマラヤで最終解

脱を果たされた。その後、すべての魂の救済を目的として、オウム真理教を設立。その比類なきステージの高さには、チベット仏教の政治的・宗教的指導者であられるダライ・ラマをはじめとして、チベット仏教の高僧やインドで〝聖者〟と呼ばれるヨーガの成就者たち、そして、その他の仏教の聖者方も絶賛している。また、執筆活動や音楽活動、さらにはオペレッタの総指揮などを務めるなど、その才能は多岐にわたっている。

聖者マンジュシュリー・ミトラ智徳成就者

大阪大学大学院理学研究科物理修士課程修了。宇宙物理学を専攻。その後航空機関係の研究・開発に携わる。90年の夏に仏教でいうところの阿羅漢の境地に到達。現在、真理科学技術研究所所長。その幅広い知識と、修行者としての資質には周囲から高い定評がある。

なお、真理科学技術研究所では、仏教・ヨーガ理論と現代科学との融合によって、人々に真の恩恵をもたらすための研究が日夜行なわれている。

＊本編では「智徳成就者」ではなく「供養値魂」。

聖者サンジャヤ上流師

早稲田大学大学院理工学研究科修了。物性物理学、特に超伝導を専攻。90年の秋にクンダリニー・ヨーガを成就。

聖者ヴァジラティッサ到達光師

京都府立医科大学卒業後、大阪鉄道病院消化器内科勤務。90年７月、クンダリニー・ヨーガを成就。現在、オウム真理教附属医院顧問。

豊田　亨（とよだ　とおる）

東京大学大学院理学系研究科修士課程修了。理論物理学、特に素粒子論を専攻。

松原俊一郎（まつばら　しゅんいちろう）

この番組の司会者。東京大学文学部でインド哲学を専攻。

＊出演者の称号に関しては、番組収録当時のままで掲載いたしました。

刊行によせて

現在、人類は公害や資源の枯渇、土壌侵食などの、地球的規模の危機を迎えています。この地球的規模の危機は、ローマクラブの数学モデルによっても予言されています。この数学的モデルは、フォレスター博士、メドウス博士とその仲間によって開発されたもので、人類が現在の大量消費の社会構造を改めなければ、その危機は回避できないということを示唆しています。ロシアで開発されたその数学モデルは、経済的・生態学的なアプローチを使って地球の発展を知的にコントロールすることができれば、地球の危機は回避できることを示しています。

ところで、わたしが麻原尊師を知ったのは、このテレビの番組「真理探究」(ロシア版「Постижение Истины」) を通してでした。それから、60時間のノンストップセミナーに参加し、麻原尊師の著書を4冊読み、アストラル音楽のコンサートに参加し、最後に尊師と直接お話しし、わたしは麻原尊師とオウム真理教に次のような思いを抱くようになったのです。

わたしはまず第一に、キリスト教やイスラム教と違い、オウム真理教の教義が現代のわたしたちの生活様式に柔軟に適応したものであることに惹かれました。そして、そのオウム真理教の教義は次の5つの柱に集約されています。それは、

1) 教義
2) 修行体系
3) イニシエーション体系の存在
4) 生きたグルの存在
5) 短期間 (数年以内) で高い霊的ステージを達成した何百人もの弟子の存在

です。

この5つの柱の中で、わたしは「生きたグルの存在」が最も重要であ

ると思います。なぜなら、教義、修行体系、弟子の霊的な成熟を早めるイニシエーション体系を発展させ改善するのは、その生きたグルであるからです。

また、わたしが第２に感銘を受けたのは、麻原尊師の教えのすべてがキリスト教および他の宗教の教義を包含していることです。そして、他の宗教と違ってオウム真理教の教義体系は詳細かつ論理的で、また、この人類危機の時代に最も適応したものであるといえます。

わたしはこのように、麻原尊師の教義を学んだ結果、次のように思うようになったのです。先程述べた数学的モデルの示唆するように、麻原尊師は、地球の生態系や文明の崩壊を防ぐため、人々の邪悪な欲望を取り除いて霊的な土台を形成し、彼らに真理の道を歩ませ、崩壊防止のための具体的な行動を起こさせるのではないか、と。つまり、地球の発展を知的にコントロールする方法を麻原尊師が人類に与えてくれるのではないかということです。

また、オーケストラ「キーレーン」やその著作などからわかるように、麻原尊師は宗教だけでなく他の様々な分野でもプロのレベルをはるかに凌駕した活躍をされているのですが、その才能は科学においても同様です。

その麻原尊師とオウム真理教の修行者たちが、現代の科学的アプローチと科学技術を、修行者の内的機能の変化を調べるために利用し、また、修行者の霊的プロセスを進めるために利用しているのは、今までの宗教とまったく異なる画期的なアイデアです。例えば、脳波測定によって、修行者の霊的なステージが高いほど脳波の周波数が低いという結果が出たのは、人間の霊的進化の科学的証明であると思いました。また、弟子のレベルが高いほど、意志の力によってチャクラの存在する位置の皮膚の電位をコントロールする力が高いという実験結果も、同様の感想を持ちました。

麻原尊師の発明された装置、ポワ装置やアストラル・テレポーターは非常に興味深く、また、わたしたちに大きな利益をもたらすことでしょ

う。アストラル・テレポーターはマントラのヴァイブレーションに関する秘密のベールをはぎ、また、弟子の修行を大きく進めます。ポワ装置は、弟子の霊的プロセスを進め、高い世界へ至らせるという意味で、アストラル・テレポーターを発展させ、応用したものであると言えるでしょう。

このように、「真理探究」はわたしたちに様々な科学的示唆を与え、霊的な人間の進化の可能性を示してくれます。この「真理探究」シリーズの刊行によって、多くの人々が真理の流れに入り、地球の危機が回避されることを願います。

モスクワ大学　数理学部教授
ロシア科学アカデミーキルティッシュ応用数学研究所主任科学研究員
V. A. イェヴォロフ

麻原彰晃の
真理探究シリーズ①

人類進化の鍵をにぎる
究極の瞑想状態

検証「死」サマディ

CONTENS

はじめに …… 2
真理探究について …… 3
刊行によせて …… 5

第1章　サマディの科学的検証 Part 1 …… 9
1．瞑想とサマディ …… 10
尊師説法　オウム真理教とは
対談

2．水中エアータイト・サマディ …… 20
尊師説法　選択・現世の喜びは
一時的喜びにすぎない
対談

3．経典の記載事項の科学的証明 …… 35
尊師説法　共産主義を超えて、真理へ
対談

第2章　霊的ステージと心の強さ …… 53
尊師説法　人間の最終目的
対談

第3章　質疑編　神への道を考える …… 73
尊師説法 内分泌とショックに対する強さ
対談

第4章　死の科学的探究 …… 91
尊師説法　生と死
対談

第5章　生命の尊厳と生物の形態 …… 109
対談

第6章　サマディの科学的検証 Part 2 … 129
1．低酸素状態での瞑想Ⅰ …… 130
尊師説法　人間を超えて神々の世界へ
対談

2．低酸素状態での瞑想Ⅱ …… 144
尊師説法 過去世・現世・未来世を超えて
対談

参考文献 …… 157

第1章　サマディの科学的検証 Part1

1．瞑想とサマディ
2．水中エアータイト・サマディ
3．経典の記載事項の科学的証明

1. 瞑想とサマディ

尊師説法　オウム真理教とは

こんばんは、麻原彰晃です。

皆さんは今、自分自身が生きていることに対して疑問を感じたことはありませんか？

わたしたちはこの人間の世界においていろいろな経験をします。しかしその経験は、わたしたちにとって利益をもたらす経験より不利益をもたらす経験の方が多いのです。

それはなぜでしょうか。

それはこの人間の世界の本質的なものが煩悩を欲求することを背景として形成しているからなのです。したがって、この世の経験をわたしたちが追求し続ける限り、わたしたちは煩悩、つまり、より具体的な形のあるものに対するとらわれの心が増大し、それによって、その形のある世界にとらわれ、縛られ、そして流転を繰り返すのです。

ところで、このデータに対してその対峙的な立場に「真理」というものが存在します。これは煩悩と反対側の極にあり、煩悩を止め、そして煩悩を完全に破壊し、それによってわたしたちの本質に至らしめるための考え方、あるいはデータであるということができるのです。そしてその真理の中で最も大切なもの、それが「無常」なのです。

では「無常」とは何でしょうか。

例えばわたしたちは、生まれ、成長し、老い、そして死にます。

これは、わたしたちの一つ一つの細胞が、「変化」というものを土台として活動し続けているがゆえに起きる現象です。もしこの変化を止めることができるとするならば、わたしたちは永遠の生命を得ることができるはずです。しかし、わたしたちは、この無常から脱却することは、本質的にできません。それはこの細胞の一つ一つが、先程述べた無常の心を根本として物質に影響を与え、成立しているからにほかなりません。

そしてこの宇宙の構成も同じです。その創造・維持・破壊という無常。これをサンスクリット語で表わした場合、それは「オウム」という言葉になります。つまり絶対の真理の本質の中心である、宇宙の無常を表わす「オウム」と、それから「真理」というものの複合的な名称、これが「オウム真理教」の由来なのです。

さあ、皆さんも、今自分自身の生きていることに対して疑問がおありなら、オウム真理教の門を叩いてみてはいかがでしょうか。

《対談》瞑想とサマディ

キリスト教の開祖イエス・キリスト、そしてイスラム教の開祖マホメット、仏教の開祖真理勝者サキャ神賢（仏陀釈迦牟尼）。これら世界三大宗教の開祖ほど長きにわたり人類に偉大な影響を与え続けている存在はないと言っても過言ではないでしょう。まずこの３人の偉大な人物の共通点を探っていきたいと思います。なぜなら、この３人の教えの背景には、共通の普遍的法則、すなわち真理というものが存在していると思われるからです。

3人の聖者の共通点――超人的な力

松原　さて、それでは三人の聖者の共通点について、何か意見はありますか？

聖者サンジャヤ　歴史上の偉大な宗教家によくあることですが、彼らはある種の超人的な力を持ってることが挙げられますね。例えば、サキャ神賢は多くの奇跡を起こしていますね。テレポーテーションや空中浮揚をはじめとして、様々な神通力を使っていたことが仏教の経典にはうたわれています。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　キリストも、ただの水をぶどう酒に変えたり、病気の人をたちどころに治してしまったり、といった記述が聖書の中にありますね。

マホメット　　イエス・キリスト　　サキャ神賢

3人の聖者

松原　どのようにしたらそのような超人的な力がつくのでしょうか。

瞑想――超人的力を身につける方法

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そうですね。一つの答えとしては、それは「瞑想によって得られるということ」ではないでしょうか。実際さっきの３人の聖者、これはみんな修行者で、瞑想をしていたわけです。

聖者サンジャヤ　そうですね。サキャ神賢が菩提樹の下で瞑想を行ない、偉大な悟りを得たのは有名な話です。そしてマホメットも、メッカ郊外の丘で瞑想にふけるようになり、やがて大天使ガブリエルから神の言葉の啓示を受けるようになったといわれていますね。

瞑想とは何か
――心の働きによりすべての現象は動く

松原　そうですか。ところでその、「瞑想」とは何か、少しご説明願えますか？

尊師　この瞑想というのは、意外に聞こえるかもしれないが、一般の人たちも行なっている、精神的作業であることは間違いないんだよ。例えば、おなかがすいたら、その自分の食べたいもののところに行く。例えば、食べたい店屋に行って、そしてそこで

何か食べると。これと同じように、心の働きがすべての現象を動かしているということが、もともと、瞑想の根本であるということはいえます。したがって、例えば神と遭遇したいと考えるならば、その魂は必ず神と遭遇することとなり、また、偉大な神の力を得たいと考えるならば、必ずそうなるのです。もちろんそれには特殊な方法が必要ではあるけども。

瞑想の最終目的 ——本質的な自由・幸福・歓喜を得る

松原　「瞑想」についておぼろげながらわかってきたような気がいたしますが、そもそも「瞑想」というのは、何を目的にしているのですか。

尊師　いろいろな瞑想の段階があります。例えば、サキャ神賢の教えにおける瞑想の最終目的は、わたしたちが本質的に自由・幸福・歓喜である状態を得るということでした。

イエス・キリスト、あるいはマホメット等の瞑想の目的は、神との合一、そして、神の世界に自分自身の身を置き、そこで長きにわたる、——経典によっては〝永遠〟とも書かれてるわけだけど、実際は、考えられないほど長きにわたる生命をそこで楽しむということが目的である、ということができます。

瞑想とサマディの違い ——感覚・イメージ・呼吸の停止

豊田　尊師、瞑想とサマディの違いがよくわからないんですが、その点に関してお聞かせ願えませんか。

尊師　この「サマディ」というのは、瞑想ステージの中の最後の段階を表わします。もちろん、世界にはいろんな経典があって、その経典によっては、瞑想とサマディを同義語としてとらえているわけですが、正確にそのサマディの状態を表現するならば、感覚の停止、そしてイメージ等の停止、呼吸の停止ということができるしょう。

豊田　なるほど、わかりました。

なぜオウム真理教なのか

松原　今日スタジオにお越しいただいている方々は、科学者であると同時に、麻原彰晃尊師の弟子でもあるんですね。今回は番組の最初でもありますから、自分がなぜオウム真理教を選んだのかということについてお伺いしてみましょう。

まず、豊田さんからお願いいたします。

豊田　そうですね、わたくしは物理学を勉強していたわけですが、物理を学びながらも唯物的なものの見方ですべてわかるんだろうかという疑問を持っていました。これに対する完全な解答がオウム真理

教の教義にあったというわけです。例えば、現代の科学ではどうにもならない「死」という問題がありますが、これに対しても明快な解答があり、しかもその教義どおりに死を超越する体験をしておられる先輩方が、何人もおられると。まあこういった点ですね。

松原　なるほど。次は、聖者サンジャヤ上流師、お願いいたします。

聖者サンジャヤ　はい。わたしがオウム真理教を選んだ理由は、オウム真理教の教義が、人の生きる目的、そしてその目的に至る方法を、明確に指し示していたからです。わたしは無常感から、ごく一般的に行なわれている生き方について疑問を感じていました。例えば、いくら物質的に豊かになっても、物の価値というものは時が経てば変わり、物は必ず壊れます。そして、避けることのできない死をもって、手放さなければいけません。このように考えると、すべては無常で空しく思われました。では、どのように生きればよいのかという問いが出てきますが、この問いに対する解答が、オウム真理教で言われている解脱・悟りを目指す生き方だったのです。

松原　ありがとうございます。では次に、聖者マンジュシュリー・ミトラ供養値魂はいかがでしょうか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい。自分が何のために生きているのか、自分自身の人生の目的がわからないために、いつも何か空しく満たされない思

いを持っていたわたしは、麻原尊師の本に触れて、これは本物である、これこそが真理であるという思いを強く持って、それで修行の道に入ったのです。

そして瞑想によって自分自身の過去世を思い出し、尊師のもとで救済活動のお手伝いをするために、使命を持って生まれてきたことを知り、尊師のもとに出家したわけです。

松原　ありがとうございました。

それでは、第1回の締めくくりといたしまして、尊師の方から何かコメントをいただけるでしょうか。

「真理探究」の役割――瞑想体験への科学的示唆

尊師　人間には2つの生き方があるということができます。そしてその一つの生き方は、正しい生き方をなし、瞑想し、そして人間以上の世界を経験する、つまり神々の世界を経験するという生き方が一つ。それから第2の生き方は、欲望を満足させ、エネルギーをロスし、そして疲労と苦しみの世界を経験し、最終的には下の世界の状態で死を迎える、つまり、例えばガンや、あるいはリューマチ等の痛みだけの状態で死を迎える、という2つの生き方が存在すると思います。

そして、この第1番目の生き方についての明確な科学的示唆というものが今までなかったわけですが、それについて、この番組がこのロシアの皆さんに大きな貢献を与えることができるならばそれはこの番組の存在価値として、目的を果たしたこととなると思います。したがって、ロシアの皆さん、この番組に大いなる期待を寄せていただきたいと思います。

2. 水中エアータイト・サマディ

尊師説法　選択・現世の喜びは一時的喜びにすぎない

こんばんは、麻原彰晃です。

世界には多くの宗教が存在しています。代表的な宗教としては、キリスト教、仏教、あるいはヒンドゥー教、そのヒンドゥー教の教えを体現するための、ヨーガ、イスラム教、あるいは中国に存在するタオイズム等です。これらの教えは本質的には同じ土台であり、そして、その教えを説いた根本的な教祖の心のステージ、つまり宗教的経験により、その段階が形成されます。

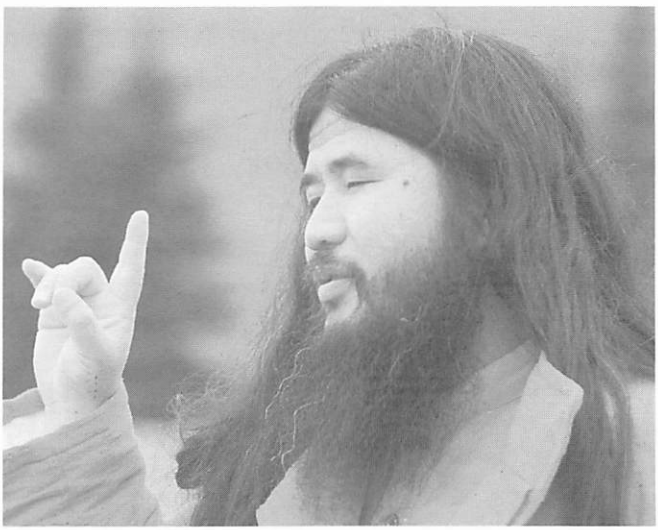
しかし、例えば、代表的なイエス・キリストや仏陀釈迦牟尼。この二人の偉大な聖人を対比して考えましても、二人とも出家修行を説いていますし、またその根本には、この世の中の本質――それは「無常」であり、そしてこの世の中にとらわれることそのものは、わたしたちに本質的な喜びを与えるのではなく苦しみを与えるものである、ということをはっきりと言明しています。

ではなぜ、この世の中にとらわれてはいけないのでしょうか。それは、この世の中のものは、第1回にも述べたましたとおり、「無常」を根本としており、この「無常」の本質は、愛著すればその愛著によって苦しみ、また、喜びがいつ苦しみに変わるかわからない、といった条件を絶えず備えているところにあります。

そしてわたしたちが、この世界、つまり愛欲の世界から脱却するだけでも、わたしたちは大きな喜びの世界を経験することができるのです。

あなたは、いにしえの偉大な聖者の教えを実践し、そして自己の本質を知り、それによって本当の意味での絶対の幸福や自由や歓喜を味わうという、素晴らしい道を目指しますか。それとも、無常を根本とした、一時的には喜びを与えるかもしれないが、その背景には多くの苦しみを有しているこの現世の喜びを求めますか。それはあなたが、本質的に宗教的な素質を有しているかどうか、科学的な素質を有しているかどうかによって決まりますね。

わたしはあなたが、宗教的な、そして科学的な資質を有していることを望みます。



《対談》水中エアータイト・サマディ

仏典には、瞑想プロセスが詳細に記載されています。そしてそれによれば、ある段階に至ると多くの神秘的な力を得ることができるとあります。 実際、オウム真理教では多くの人々がその経典に沿った瞑想体験をしたり、神秘的な力を得たりしているのです。

宗教における死後の世界、超自然的な奇跡といった神秘の世界は、実験や観察などの科学的方法によっては証明できないものと考えられてきました。しかし、今、それが変わりつつあるのです。

オウム真理教では、ステンレス・チェンバーや、フォトン・カウンターなど、最新の測定機器を用い、修行によって得られる神秘的な力を可能な限り証明しようとしているのです。つまり、仏典や聖書に記された様々な「奇跡」に対して、単に修行によってその体験をするだけではなく、実験による科学的な証明も行なっているのです。

「真理探究」、今回は前回に引き続き、瞑想、そしてサマディの神秘について、科学の視点から皆さんと一緒に探っていくことにしましょう。

サマディ——究極の瞑想状態

松原　前回は、サキャ神賢、キリスト、マホメットといった三大宗教を興した聖者の共通点を探りました。

豊田　そうですね。彼らの思想というのは世界に大きな影響を与えてきましたし、そして、今も与えているわけですけれども、これはやはり何か、共通の、

＊ステンレス・チェンバー
→図1参照
＊フォトン・カウンター
→次ページ参照

図1　ステンレス・チェンバー
修行者が瞑想する密室

＊フォトン・カウンター
光を粒子と考えた場合、目に見えない光の最小単位である光の粒子、「フォトン」をとらえる装置。
生物の発する光、例えば、植物が芽を出すときの光の計測や、天体観測などに用いられる。

普遍的な法則といいますか、一種の〝真理〟があるんじゃないかというわけですね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい。サキャ神賢、キリスト、そしてマホメットと、彼らの共通点は何か。結論としては、それは彼らが瞑想をしていた、そしてその瞑想の目的はサマディであった、ということでしたね。

松原　そのサマディというのは究極の瞑想状態だったということでしたね、そのときには。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　ええ、前回もお話ししましたが、「呼吸が停止する」と経典には記載されています。

サマディの実験

尊師　今、実際、このサマディの実験を担当しているのはサンジャヤ君なわけだけども、オウム真理教では、今現在はどういう実験が中心となっていますか。

聖者サンジャヤ　はい、今行なっている実験というのは、密閉されたチェンバーで修行者に瞑想してもらい、その瞑想中の酸素消費量を測定しています。

尊師　そのチェンバーは、どのように密閉されているかどうかのチェックをしていますか。

聖者サンジャヤ　はい。その密閉性のチェックというのは、チェンバー内部を加圧または減圧してしばらく放置しておきます。で、そのときの圧力変化を見ます。もしチェンバーに漏れがあるならば、圧力が減るはずです。その変化がないことをもって、このチェンバーに漏れがないということをチェックしています。

＊サマディについては次ページ参照

＊サマディ

（１）サマディとは何か

仏教、ヨーガ経典によく登場し、究極の瞑想状態といわれるサマディとはいったいどのようなものであろうか。

まずはサマディという言葉の意味からみてみよう。サマディという言葉はサンスクリット語 であり、「死の状態」という意味である。

科学的な定義は大きく分けて２つある。１つは「完全なる呼吸停止と完全なる心臓の拍動停止の状態」であり、もう１つは「完全なる呼吸停止と心臓は拍動している状態」である。現代のインド・ヨーガの研究では、後者が正当とされている。そして、身体の代謝が著しく低下する。

このとき、修行者は頭頂から化身と呼ばれる〝別の身体〟が抜け出し、様々な世界を体験しているのである。

（２）サマディの段階

最古にして最高のヨーガ経典、『ヨーガ・スートラ』によれば、ヨーガ修行のステージには３つの段階があるとされている。精神集中（ダーラナー）、瞑想（ディヤーナ）、超覚醒（サマディ）がそれで、この３つをもって広義の意味で「サマディ」という言葉が用いられている。

さらに細かく見ていくと、この超覚醒もまた、大まかに２つのサマディに分類できる。これがサヴィカルパ・サマディとニルヴィカルパ・サマディの２種類である。

サヴィカルパ・サマディというのは、自分がこの世に生きているという意識が存在したままで我々の住むこの現象界の裏側にある世界、つまり、アストラル世界、コーザル世界へと意識が飛んでいる状態である。このとき呼吸や心臓は完全に停止し、肉体は仮死状態となる。これは、いわゆる「死後涅槃」に達するものである。

これに対し、ニルヴィカルパ・サマディの場合、その違いは意識そのものがすでに涅槃の状態にある。涅槃にあって、この現象界、その裏側にあるアストラル世界、コーザル世界のすべてが経験できるのが、このニルヴィカルパ・サマディというわけだ。このサマディに入れるステージでは、呼吸停止のまま、肉体を動かしたり話したりすることが可能となる。これがいわゆる「現世サマディ」または「現世涅槃」といわれる状態で、力のある聖者はおよそこのステージに達していた。

『麻原彰晃のザ・サマディ』　オウム出版より

水中エアータイト・サマディ
——11時間20分にわたる呼吸停止

尊師　ところで、オウム真理教のこのサマディの実験は、マンジュシュリー・ミトラ、「水中エアータイト・サマディ」から始まったんだったよね。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　そうです。最も完璧に気密性を証明するという意味において、水の中にチェンバーを沈め、その水が漏れ込まないということをもって、気密性の証明にしました。

そして経典に記載されたその呼吸停止を証明するために、瞑想の妨げにならないように非接触で測定する必要があるということから、チェンバー内の酸素濃度の変化、これを基にして酸素消費量を測ったわけです。

尊師　ところで、豊田君。具体的には、その「水中エアータイト・サマディ」はどのような構造で実験されたのかな。

豊田　はい。まず測定装置について説明しますと、この実験のポイントとしては、サマディ室に漏れがないこと、これが挙げられます。

この条件を完璧にクリアするために、我々は二重の水槽を用意しました。

→図2参照

外側の水槽に水を入れ、被験者の入った内側の水槽をその中に沈めます。この方法ならば、完全に内側の水槽が密閉されていることがわかります。そし

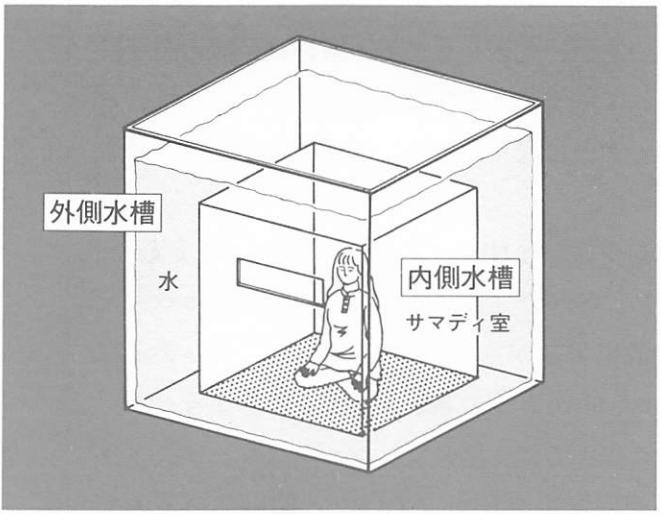


図2　チェンバーの構造
二重の水槽になっている。

聖者マハー・ケイマ最上善逝プロフィール

麻原尊師の一番弟子。1984年修行の道に入り、87年クンダリニー・ヨーガ、88年マハームドラーを成就。個の完成を果たし、仏典でいうところの供養値魂（阿羅漢＝あらはん）のステージに至る。なお、「水中エアータイト・サマディ」の以後、「シャクティーパット」など他を利する修行に励まれ、89年には大乗のヨーガを成就。

＊シャクティーパットとは？

霊的指導者であるグルが弟子に対して奥儀を教え、さらに、霊的エネルギーの移入、霊的経験を授けるイニシエーション（秘儀伝授）の中でも最高の部類に入るもの。解脱者が相手の体に直接触れ、高次元のエネルギーを移入する。しかし、解脱者にとっては相手のけがれたカルマを背負うことになり、肉体的にも精神的にも激しいダメージを受ける。

て、この内側の水槽の中で、被験者が瞑想に入るわけです。

内側の水槽、つまりサマディ室には、酸素濃度計が置かれています。この酸素濃度計のデータは、コンピューターに取り込まれ、データ処理がなされます。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　それでは実際に、1988年に、尊師の一番弟子であられる聖者マハー・ケイマ最上善逝が水中エアータイト・サマディに挑まれた、そのときの様子を紹介しましょう。

松原　このときは、聖者マンジュシュリー・ミトラ供養値魂が測定を行なっていたと聞いているんですけれども。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい、実際の測定はわたくしがいたしました。

1988年5月17日、富士山の麓で水中エアータイト・サマディは行なわれたんですが、わたしはこのとき、ずっとついて計器をモニターしていたんですけれども、まったく酸素濃度計の表示が動かないので、非常に心配したものです。しかし、11時間20分経って、酸素濃度計の表示は0.1パーセント下がりました。その後も、非常にゆっくりと、酸素の消費があることがわかり、酸素濃度計が正常に作動していることがわかりました。

→図3－1
図3－2
図3－3
参照

豊田　ここにグラフがありますが、11時間20分にわたって、酸素消費量がゼロの状態が記録されています。

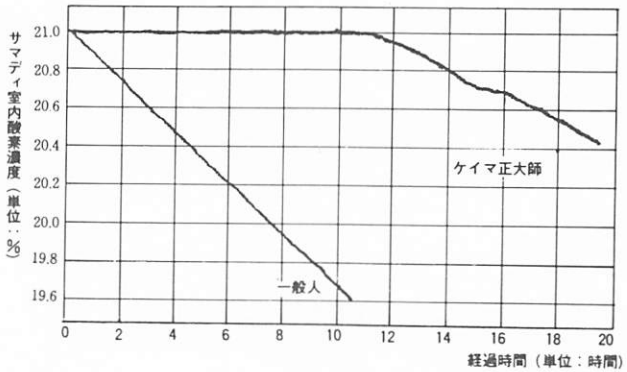


図3－1　グラフ
聖者マハー・ケイマ最上善逝サマディ室内の酸素濃度の変化
（1988年5月17日　静岡県富士宮市オウム真理教総本部道場）

図3－2　チェンバー内の
聖者マハー・ケイマ最上善逝

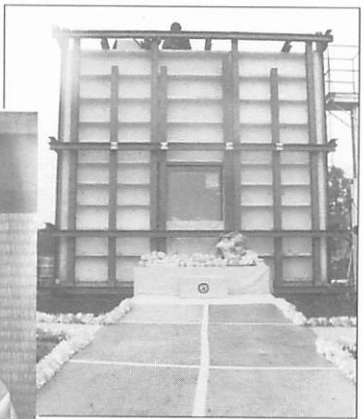


図3－3　水中エアータイト・
サマディのチェンバー
サマディ室3×3×2.4m、
実質内容積20.0m³

松原　うーん、すごいですね。11時間20分呼吸が止まっていたわけですか。うーん……。

でも時々、いったん死んだというような判定が下されたのちに、生き返ったりするような例を聞くことがあるんですが、この実験の被験者である聖者マハー・ケイマ最上善逝は、そういう状態になられたのでしょうか。

サマディの状態――鮮明な意識の連続

尊師　いや、意識は普通の人に比べて最も鮮明な状態を続けているということができるね。これは例えば、経典の中で『パーラーヤナ』という経典があるわけだけども、この中でも覚者の意識状態というものは連続したはっきりとした意識状態でなければならないと出ています。もしこのときに、気絶が起きるとするならば、それは呼吸停止、そして心臓停止、気絶をもって〝死〟ということができます。したがって、サマディと死の違いとは、呼吸停止、例えば心臓停止があったとしても、意識は鮮明に連続していなければならないということが、違いとして挙げられるでしょう。

心の本質（真我）による肉体のコントロール

松原　そうですか。それから、サマディに入ってい

る修行者がサマディから目覚めたときに、肉体的に障害か何かが起きたりするようなことはないんですか。

尊師　それは、まったくないということができます。

松原　それはなぜなんですか。

尊師　もともとこの肉体というものは、わたしたちのカルマ、わたしたちの過去世の行動・言葉・心の働きによって成立しているわけですが、そのサマディに入る途中の段階において、この肉体・感覚・イメージ、そして経験の構成と呼ばれている光の粒、データの移入されている光の粒があるわけですが、これらを一つ一つコントロールしていって最終段階としてサマディに入るわけです。ですから、心の本質とも、あるいは真我とも呼ばれているものがこの肉体をコントロールしますので、そのことについてはまったく危険性はないということができます。

修行者の内的体験
——六神通と覚醒した意識状態

松原　修行者というのは、多分内側の経験をしているのではないかと思うんですが、実際、どういう内的な体験をしているんでしょうか。

尊師　これについては六神通と呼ばれるプロセスを経験するか、あるいはそれよりも最終の段階である、純粋に動かない意識、覚醒した意識しかない状態を経験するかの2通りがあるということができ

→六神通についてはP33参照

そして、このときは、時間の感覚がまったくありません。そうですね、時が止まっている状態、たぶん、時が自分の外側にあって、まあ自分とは無関係に流れているような状態、になるのだと思います。

言うならば「時を超えた状態」ではないでしょうか。

死んでしまったら、肉体に意識が戻ることは普通はありません。サマディは、自己の肉体と心を完全にコントロールしていますから、もうこのサマディに入ることができれば、生死を超えた、本当の自由を得ることができた、といえるのではないでしょうか。

松原　それでは、最後に麻原尊師の方から何か、コメントをいただけますか。

宗教を選択する3つのポイント

尊師　宗教には多くの宗教が存在しています。しかし、どの宗教を実践するかによって、わたしたちの来世はまったく違った方向へといざなわれることになります。

そして、どの宗教が正しいかどうかは、教義、その教義を裏づける実験、そしてそれを体現している人たち、この3つが必要ではないかと思うわけです。

あなたも宗教にだまされず、自分自身の未来を自分自身で決めていただきたいものです。

3. 経典の記載事項の科学的証明

尊師説法　共産主義を超えて、真理へ

こんばんは、麻原彰晃です。

このたいへん雄大な国、ロシア。このロシアは、多くのことを歴史において経験してきています。そして何よりも大きな経験は、共産主義を実体験したということではないでしょうか。

もともと共産主義は、本質的にはわたしたちを物質的に豊かで、そしてこの現実の世界において不満のない社会を形成する理論を基として作り上げられた教えです。

しかし、その共産主義が崩壊した理由は何であるかというと、それはこの無常を根本とした世界の上に、無常を根本とした理論を展開したことにある、ということができるでしょう。

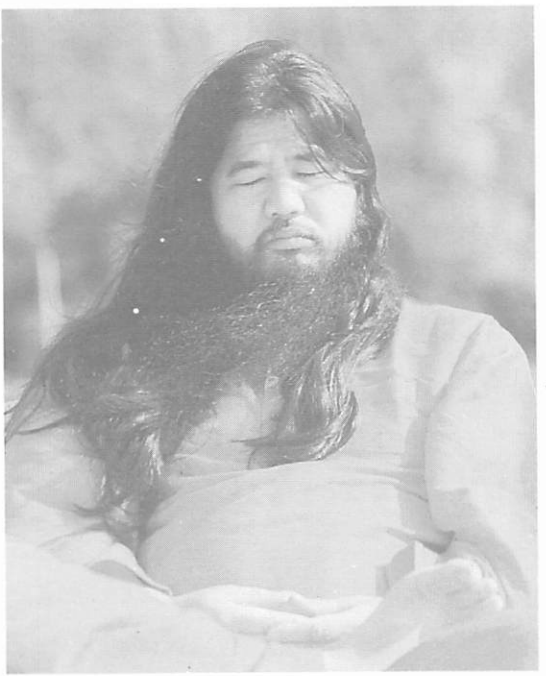
もしこの世の中が、無常ではなく、つまり死というものを持たない世界であるとするならば、その論理的な教えが正しければ、そして、それが正しく実践されているならば、すべての人が物質的に豊かで、そしてその背景としてある『他の人を利する』、つまり他の人に利益を与えるという思想なるがゆえに、すべての人が幸福であるはずです。

しかし、例えば、人間は偉くなればなるほど欲望を増大します。この欲望の増大は、結果的には利益の独占を生み、そしてそれによって不平等が成立するのです。したがってもし共産主義的な考え方に加え、その一人一人が煩悩を滅尽する修行、つまり宗教的な実践を行なうならば、その国家は偉大な最高の繁栄を得る国と

なることでしょう。

この共産主義は、資本主義から一歩進んだ教えであるということができます。その資本主義を超えた共産主義を実践したあなた方が、その共産主義をもう一歩超えた、科学を背景とする宗教である絶対の真理を取り入れるならば、このロシアはこれから数年後、大いなる繁栄の国へと変わることとなるでしょう。

わたしとそしてわたしの弟子たちは、その一助を担うことができるならば、幸いだと考えます。



第3章　質疑編　神への道を考える

尊師説法　内分泌とショックに対する強さ

こんばんは。麻原彰晃です。

今日は皆さんに、内分泌の働きと、そしてそれがどのように霊的な体験に生かされるかについてお話をしたいと思います。

皆さんもご存じのとおり、内分泌系の働きとそしてショックの関係については、よくご存じのはずです。例えばホルモンの働きが正常に行なわれている場合、わたしたちは、まあ特にこれは副腎と関係があるわけですが、たいへんなショック状態に陥ったとしても、そこから回復することができるというような話をよく聞きます。ところで、わたしたちが内なる世界の扉を開くためには何が必要なのかということを考えた場合、このショックに対していかに強くなるかということが一つのポイントとして挙げられると思います。

つまり、わたしたちの意識というものは内なる空間をものすごいスピードで通過します。そのときに、わたしたちの煩悩のけがれ等とのぶつかり合いが生じ、それにより一般的には気絶状態を経験するわけです。これは修行者もよく虚空三昧といったかたちでその状態を表現されます。つまり、内なるエネルギーが上昇する、それによって意識が上昇する。しかし、その意識は、内なるデータのけがれとぶつかり合い、そしてそこで大きなショックを受け、そこで気絶する。そこでとうぜん呼吸が止まったり、あるいは、何も経験しない時間、これをかなり長い間経験する。ちょっとおかしな話ですが、つまり経験しない時間を長く経験するとい

うことは、その間は気絶しているということがいえるでしょう。

しかし、これらの働きに対して、もしわたしたちの内分泌系、特に副腎の働き、あるいは膵臓(すいぞう)の働き、あるいは胸腺の働き、あるいは甲状腺の働き、あるいは*松果体の働き等のホルモンの分泌がコントロールされ、そして抑制されるものは抑制され、あるいは逆に活発化されるものは活発化されるならば、わたしたちはその風(ふう)の働きを自由にコントロールすることができるようになり、そしてそのホルモンの働きの形成する世界を経験することができるようになるわけです。

例えば例を挙げるならば、膵臓の機能とそれから*太陽神経叢(たいようしんけいそう)との働きが普通の人の状態より活性化された場合、わたしたちは、俗にいうところの低級霊域というものを経験します。この「低級霊域」とは何かというと、要するにわたしたちが輪廻転生を繰り返すときの中間状態、つまり人間に生まれ変わる前の状態、あるいは人間が死に、次の世界へ至る中間の状態を経験することができるのです。しかし、もしこれらの働き――これは*チャクラではマニプーラ・チャクラと呼ばれるわけですが――マニプーラ・チャクラの働きや、あるいはもう一つ、チャンドラ・チャクラの働き等の働きが活性化されていない場合、例えばムーラダーラから上昇した風エネルギーは、このマニプーラ・チャクラやあるいはチャンドラ・チャクラで大きな衝撃を受け、そして、そこで完全に気絶の状態へと至るわけです。

したがって皆さんは、これらの内分泌系のコントロール、あるいは神経系の集中している部分のコントロールを行なうことにより、皆さんの内側の世界をよく理解することができるようになります。

しかし、ここでお断りしておかなければならないことは、これらの内側の経験イコール幸福に導くものではないということです。つまり、これはあくまでもわたしたちの形成している、例えばイメージや、例えば大脳の働き等といったものがどのようなかたちで表現されているかを知るにすぎないということを理解する必要があります。つまり、これらはあくまでも自分の内側を理解する材料であって、それ以上の何ものでもないということを理解すべきです。そしてそれらの内側の内容を変える実践、これこそが真理の実践なのです。

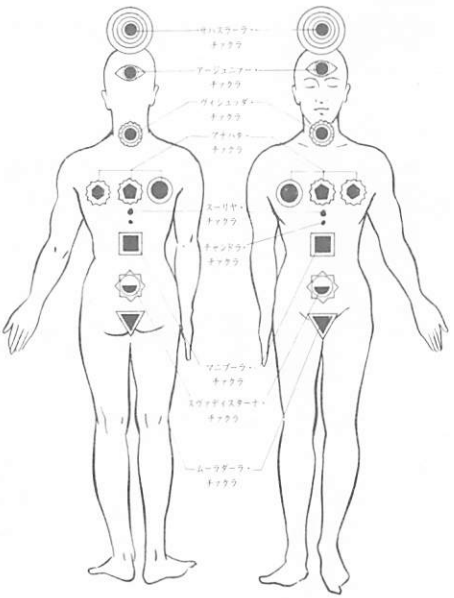
しかし、何はともあれまず知ることから。さあ皆さん、今日から皆さんの内分泌系の働きのコントロール、そして神経系のコントロール、これに集中しようではありませんか。

＊図１　チャクラ図

チャクラとは、人間の身体にある霊的なセンターで、主なものは７つである。しかし、普通の人はそれが眠った状態で働いていない。チャクラは訓練によって開発されるのである。

また、チャクラは身体の下部に位置するものに比べ、上部に位置するものほど次元が高くなる。

（このチャクラについては、以後刊行される「麻原彰晃の真理探究シリーズ② チャクラの科学」の中で詳しく取り扱う予定。）



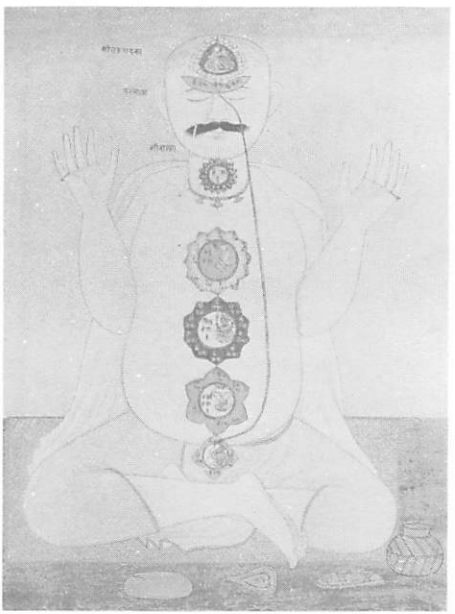


図２　インドのチャクラ図

＊松果体

脳の背側（間脳上部）にある内分泌器。成人で約８×５mm。メラントニンというホルモンを分泌。

＊ホルモン

ホルモンは自律神経と協力して、体内の組織・器官の働きを調節したり、調和のとれた成長や成熟を行なわせたりする液性調節物質である。

内分泌細胞から分泌され、血液によって全身の細胞へと運ばれる。

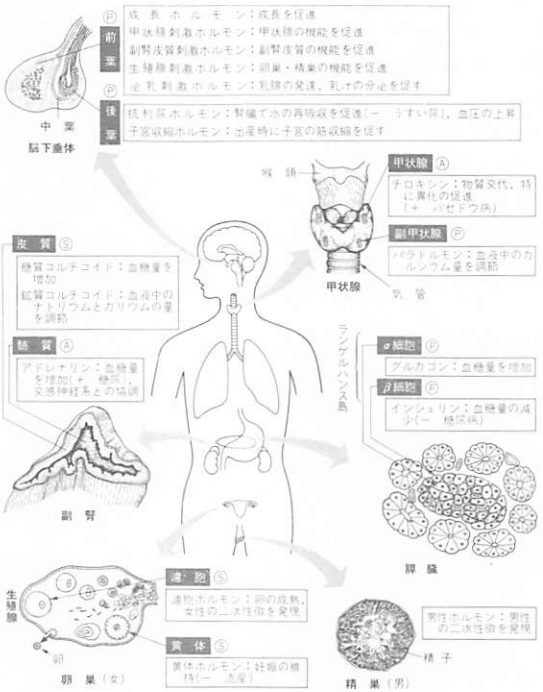


図３　ヒトの内分泌腺と分泌されるホルモンおよびその働き

ホルモンは物質的にみて、S：ステロイド系、A：アミノ酸誘導体系、P：ポリペプチド・タンパク質系の３群に大別できる。

図中、－はそのホルモンが不足の場合、＋は過剰の場合に起こる現象である。

『教養のための　図説生化学』 実教出版より

＊ホルモンとショックの関係

セリエ（H.Selye　1907～　カナダ）は、寒さや細菌の感染、騒音・傷害・精神的苦痛などの刺激、つまり、何らかのショックが生体内に伝わると、それぞれの症状のほかに、食欲不振や肩こりが起こり、さらに発熱・血圧変化、肝臓の肥大などの共通の反応が起こることに注目した。そして、これらの反応は、原因は違っても、自律神経系や副腎皮質ホルモンの働きで、ショックに対して体を防御し適応するために起こると考え、全身的適応症候群と名付けた。

また、彼は加えられたいろいろな傷害や刺激によって一種のひずみが生じるという意味で、生体内に生じる非特異的な反応をストレスと呼んだ。(1936年)

従来は、たとえば赤痢菌の感染によって赤痢になるというように、疾患は一つの原因によって特定の症状が生じるとされていたのに対して、このストレス学説は、原因が異なっても同一の操作によって病変が発生するとしている点で注目された。

実際、体にストレスが加わると、副腎皮質から分泌される糖質コルチコイドによって人体はストレスから防御される。

＊太陽神経叢

腹部にあるいくつかの神経によって形成される複雑な網状のもの。

《対談》質疑編 神への道を考える

仏教の開祖であるサキャ神賢とその高弟たち。彼らをはじめとする成就者たちは、究極の瞑想状態・サマディに入ることによって、宇宙の構造と破壊を知り、さらに宇宙の法則を超越するための真理を知ることができたといいます。

このほかにも、仏典には修行によって得られる様々な体験や神秘的な力などについての記述を数多く見ることができます。しかし、それらの仏典の記載事項は、現代の多くの科学者にも事実無根と思われてきました。

しかし、今それが変わりつつあるのです。

宗教団体の一つ、オウム真理教では、真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師を中心として、仏典の記載事項の正しさを証明するために、様々な科学的検証が行なわれています。その結果、この番組で取り上げてきたとおり、科学的にも仏典の記載事項の正しさを証明することができました。それればかりでなく、修行によって人間を超越できるということも、科学的に検証できたのです。

呼吸が停止して細胞が壊死しないのはなぜ?

松原　今回の「真理探究」では、視聴者からの質問を取り上げながら、実験に対する考察をさらに深めていきたいと考えております。

この番組に対する、質問、ご意見、ご感想などをたくさんいただいておりますが、今回はそれをいくつかご紹介していきましょう。

まず最初は、第2回目の実験に関する質問です。

Q　「この番組では、11時間20分にわたり、呼吸停止の実験データが挙げられていましたが、呼吸停止していて、どうして細胞などが壊死しないのでしょうか？」

このような質問が来ていますが、これについてはいかがですか。

聖者マンジュシュリー・ミトラ　はい。生物の体内の基本的なエネルギー生産のサイクルとして、クレブス回路があります。この回路での分解作用は、ミトコンドリア内で酸素を用いて行なわれるわけです。

＊呼吸とクレブス回路
→P83図4、5参照
＊ミトコンドリア
→P83図6参照

ですから、この現代の生物学のパラダイムにのっとって考えるならば、ここで酸素がなければ、細胞は壊死してしまうということになります。これを巨視的に見れば、次のようになります。

図をご覧ください。この図はドリンカーの生存曲線と呼ばれるもので、アメリカのドリンカー博士が提示したものです。

＊ドリンカーの生存曲線
→P84図7参照

呼吸が停止したときの時間の経過と、人口呼吸による蘇生率を示しています。この曲線を下から読めば蘇生率、上から読めば死亡率が表わされるわけです。この図でもわかるように、呼吸停止後5分間経

過しただけで、100人中75人は助からないことになります。そして10分間経過すると、ほぼ100パーセントの人が助からないことになります。そうなると、11時間20分にわたる呼吸停止が起こって平気であるということは、説明がつかないのです。

尊師　確かに、一般の生物学的見方をすれば、今聖者マンジュシュリー・ミトラ供養値魂が言ったとおりだと思うのだが、しかし、例えばエネルギー生産がゼロになった場合いったいどうなるかという問題を考えたら、この問題についてはある程度の見解を出すことができるのではないかと思います。

そして、これは将来において科学的に検証しなければならない内容の一つだとわたしは考えているのだが、「プラーナ」と呼ばれる別のエネルギー形態が存在すると。この「プラーナ」の存在は、わたしたちが呼吸停止あるいは心臓停止をなしていても、しっかりとその肉体を保全する働きがあるということが経験的にわかっているわけだね。だからその経験的な部分をあくまでも科学的に検証する場合、今の検査技術がもう少し微細になるならば、そこのところも明らかになるのではないかと考えています。

豊田　尊師、そこで「プラーナ」という言葉がありましたが、これに関してもう少しわかりやすく説明していただけますか。

＊クレブス回路

クエン酸回路、ＴＣＡ回路とも呼ばれる。

呼吸とはブドウ糖などの炭水化物を基質として進められる酸化の過程である。この過程は解糖系・クエン酸回路（クレブス回路、ＴＣＡ回路）・電子伝達系の３つで構成される。

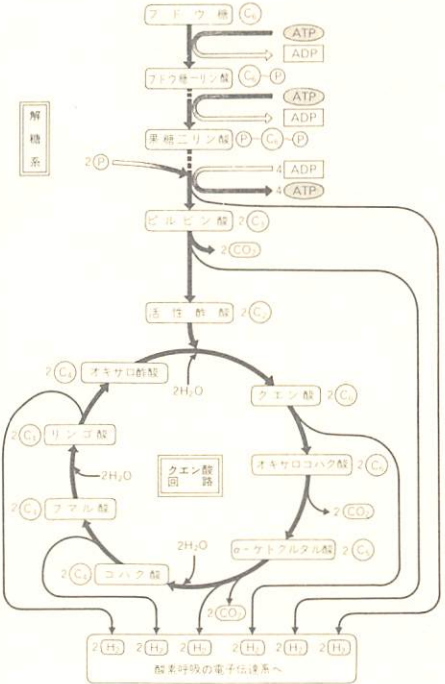


図４　解糖系とクエン酸回路（クレブス回路）

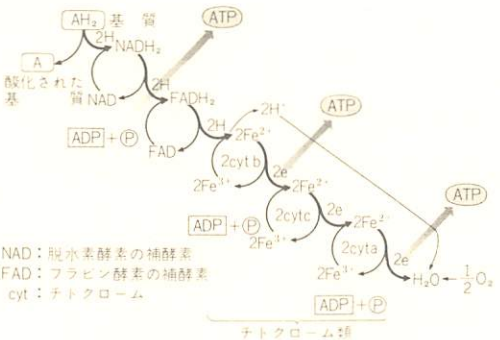


図５　電子伝達系とＡＴＰの生成

図４、５『教養のための 図説生物学』実教出版により作成

図6　ミトコンドリアとその膜構造

図中の右図は、電子顕微鏡による観察結果に基づいて描かれた模型図である。

ミトコンドリアは二重の膜で囲まれている。外膜は、分子量10,000以下の分子は自由に通過できる。内膜は、イオンや極性物質について不透過性であり、酸化的リン酸化のタンパク質などがここにある。

J. David Rawn
『ローン生化学』より

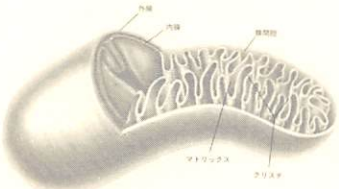
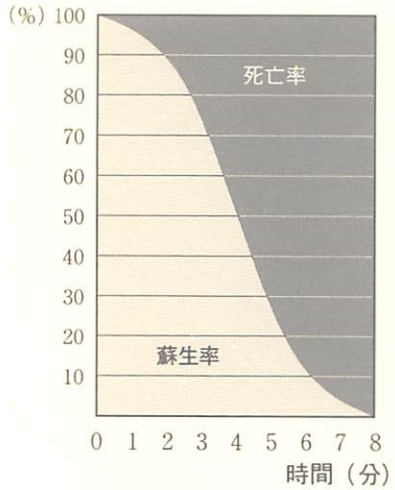


図7　ドリンカーの生存曲線

アメリカのドリンカー博士が提示したもの。呼吸が停止したときの、時間の経過と人工呼吸による蘇生率を示す。

この曲線を下から読めば蘇生率、上から読めば死亡率が表わされる。



尊師　はい、「プラーナ」というものは、心の働きによって生じる独特のエネルギーということができます。

例えばある人の心が神々に近くなるならば、体験的にそのプラーナの上昇を経験することができます。あるいは一般の人もこのプラーナのある意味での弊害を経験しているわけです。例えばエイズウイルスの感染によって、プラーナの中の最も劣悪なエ

【五種の気】

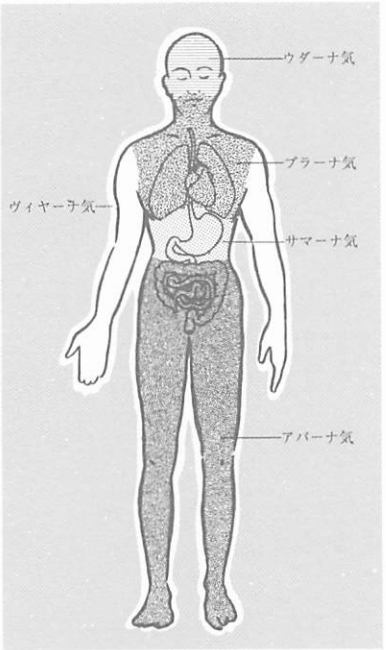


図8　5種の気

①アパーナ気――身体の汚れを浄化するエネルギー

アパーナ気は、へそから足の裏にかけてあり、色は煙色である。身体の汚れを除去し、主として排泄物（便や尿）を下降させる。また、興奮状態を鎮める。このことから、精神安定や安眠をもたらす。

②サマーナ気――「消化の炎」は真っ赤なエネルギー

心臓からへそにかけて働いている。色は赤である。食物を消化し、栄養を体中に巡らせる。

③プラーナ気――「宇宙エネルギー」を吸収するエネルギー

プラーナ気は鼻先から心臓にかけて存在する。

プラーナ（宇宙エネルギー）を呼吸とともに体内に取り入れる働きをする。

④ウダーナ気――超能力・空中浮揚のエネルギー

ウダーナ気は鼻先から頭にかけて働いている。エネルギーを上昇させる。そのため、気分が沈んでいるときに、ここに精神を集中すると気分が高揚する。色は青紫であるが、他の色に変化することもある。

⑤ヴィヤーナ気――「オーラ」といわれるエネルギー

全身にわたって身体を守っている「オーラ」である。

麻原彰晃尊師著　『超能力秘密のカリキュラム　健康編』オウム出版　より

ネルギーであるアパーナ気と呼ばれるものが下降することによって、エイズの病状がどんどん進行し、そして最終的には下痢、あるいは脱力感、あるいは意識障害、あるいは死といったようなものを経験するわけだね。よってもしそのプラーナを精神的にコントロールでき、しかもそれが科学的に測定できるならば、今の人類よりもう一つ高い次元での人類が形成されるのではないかと考えています。

そして、そのプラーナにこそサマディの秘密を解くカギが隠されている、というのがわたしの今の立場です。

豊田　なるほど、わかりました。

松原　ありがとうございました。

＊アパーナ気→P85図8参照

証明となる実験データは？

松原　それから、第3回目のサマディに関する番組について、次のような質問がありました。

その前にまず、第3回目の実験の概略から申し上げます。オウム真理教のクンダリニー・ヨーガの成就者を被験者として、「チェンバー」と呼ばれる密室で5日間瞑想を行ないました。そしてその際、正師の酸素消費量は、一般人の約68%という値が出ました。これは、「修行によって煩悩が減ると呼吸が減少する」という経典の記載事項の一つの証明になったのでした。

→P47参照

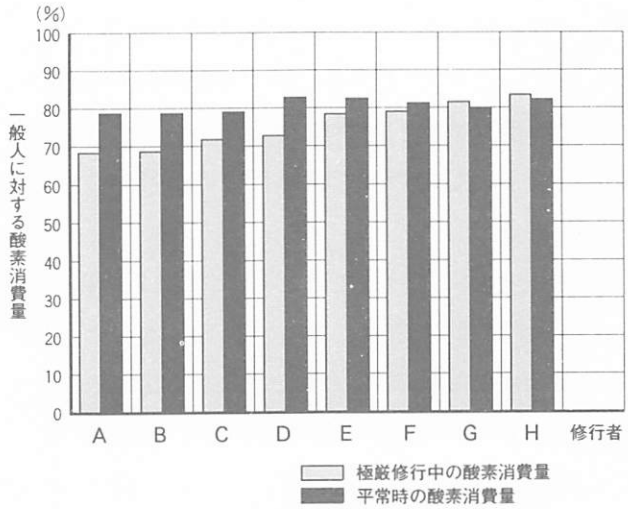


図9　極厳修行中と平常時の酸素消費量の比較
修行中の方が平常時より酸素消費量は少ない。

――まあ、こういう実験だったわけですが、では質問を読み上げます。

Q　「煩悩が減少すると、酸素消費量も減少するということですが、このことを証明する実験データはあるのですか？」

豊田　はい。例えば次のような実験データがあります。オウム真理教の出家修行者が、24時間にわたる厳しい修行をしている際の酸素消費量と、そして修行から出た後の酸素消費量を比較したものがあります。これによると，明らかに修行中のほうが、酸

→図9参照

素消費量が少ないということがわかります。極厳修行中、修行者は煩悩を減らすように努めています。すなわち、現世で培った煩悩的なデータの代わりに、聖なるデータを取り入れ、現世的な煩悩を滅尽しようとするわけです。したがって、修行中は煩悩が少ない状態といえるでしょう。

尊師　今の例を補足するわけだけども、例えば、極厳修行中で1週間の断水断食、あるいは12日間の断水断食が平気で行なわれるということは、やはりその極厳修行中の煩悩の量というのは少ないとみていいのではないだろうかね。そして、その12日間の断水断食が達成されるということは、別の言い方をすれば、その人の肉体の状態は安静時に近いと。そして安静時に近いということは、とうぜん酸素の消費は少ないということが言えるのではないだろうか。

豊田　そうですね。

『修行』『煩悩』『マントラ』とは？

松原　ありがとうございました。それから、このような質問も来ています。ちょっと読み上げてみます。

Q　「番組では聞き慣れない宗教語を多く使っているのですが、その説明をしてもらえないでしょうか？

例えばオウム真理教でいう『修行』とか、『煩悩』

とか『マントラ』とか、いったい何のことですか？」

これについてはいかがですか。まず最初に「修行」からお伺いしたいと思います。

尊師　まず、「修行」というものは、人間の肉体的エネルギーの上昇、および精神的にいろいろな欲望からの解放、そして意識を神々に向かわせ、最終的には神々になるためのトレーニングということができると思います。

松原　はい、次は「煩悩」についてはいかがですか。

尊師　「煩悩」というものは、わたしたちをこの世界に縛りつけている欲望のことであるということができると思います。

松原　では最後に、「マントラ」については。

尊師　「マントラ」とは、神々の秘密の言葉、つまり神々の発するヴァイブレーションを自分自身が発することによって神々と合一する、特殊なヴァイブレーションの音ということができると思います。

松原　ありがとうございました。次回も、今までの実験を掘り下げて、別の視点から討論していきたいと考えています。

第4章　死の科学的探究

尊師説法　生と死

こんばんは。

今回は皆さんに、生と死の流れについて少しお話をしたいと思います。

人間は必ず死ぬものである。この課題に対して、ノーと答える人は当然だれもいないはずです。しかし、この“死ぬものである”というとらえ方は、個々それぞれ違います。特に、テーラヴァーダの修行を行なっている者や、あるいはタントラ・ヴァジラヤーナの修行を行なっている者、そして普通の宗教的人生を歩いている人、それから宗教的実践をまったく行なっていない人にとっては、まったく違うものということができるでしょう。

では、これらはどのように違うのでしょうか。まず第一にタントラ・ヴァジラヤーナの瞑想を実践している人の場合、当然死のプロセスを生前、つまり生きている間に経験しているわけですから、死というものは慣れ親しんだ瞑想の一つの体験にすぎないということがいえるでしょう。次にテーラヴァーダの場合、その前の生、つまり死ぬ前の生の、自分自身の培ってきた努力、この努力がどのようなかたちで解放され、より幸福な世界へ転生するのかという意味での、たいへんな興味とそれから喜び、これが死として表現されるわけですから、これもまた大いなる楽しみということができるでしょう。

では、一般の宗教を実践してるの場合はどうでしょうか。それはその人が、もし精神的体験やあるいは霊的体験がない場合、と

うぜん自分自身の依存する神や、あるいは牧師、あるいは師といったような人たちのことを思い出し、そして半分恐怖しながら、そして何となく死んでいくパターンをとるはずです。

また、唯物的思考に完全に侵されている人の場合、死というものは肉体の停止イコールすべてが終わるという、ある意味で大胆な、しかも単純な発想によって完全なる死後気絶、そして次の生への移行、つまりこのときは別の意識、潜在意識が登場するわけですが、そのような状態になりますから、これもまた違ったかたちの死ということができるはずです。

ところで、一般にタントラ・ヴァジラヤーナやあるいはテーラヴァーダの瞑想を実践する場合、どのようなかたちで意識が移行するのかについて少し皆さんにお話をしましょう。この移行のプロセスは、明らかに肉体的特徴の変化、そして感覚における異常、それからイメージの変化、そして経験の構成、識別といった順番に解放されます。特にこの中でイメージの世界に意識が移り出すと、特殊な音、あるいは音楽が聞こえてきます。これをわたしは「アストラル音楽」、あるいは「ナーダ音」といっています。

このナーダ音の特徴は、その人の精神的な傾向を、一つのリズムや、あるいは単一的な旋律、例えば3つや5つの旋律等によって一般的に表現されます。これはわたしたちの性格が単純であることを物語っています。そして、思索の時間が長くなったり、あるいは精神集中の時間が長くなった場合、それにともないこのアストラル音楽の旋律も長くなり、最終的には一つの曲を形成するようになるのです。

ところで、もうこの一つの曲が形成されたとき、わたしたちは次の世界の入り口を手に入れたということがいえます。つまり、

例を挙げるならば、ナーガの世界や、あるいはガンダッバの世界、あるいはインドラの世界といったような神々の世界にはそれぞれのリズムとそして旋律が存在しており、その世界をすでに生前に経験してこそ、初めてその世界に次の生転生することができるからです。

もちろん、これらの中間的な経験のほかに、より深い意識状態における経験、それはコーザルにおける経験、例えば光やデータにおける経験といったようなものを確定させることにより、より高い世界への移行も可能となります。これらの一つ一つを確定させることこそが修行の目的であり、またその結果を得ずして死ぬことは、まさに恐怖そのものであるとわたしは考えるのです。

あなたは、これから、先程述べた唯物的な死を選びますか。それとも不安定な、宗教的な死を選びますか。それとも確定的なテーラヴァーダやタントラ・ヴァジラヤーナの死を選びますか。それはあなたが、これからどれくらい一生懸命、実際に精神集中の修行に励み、そして善や徳、寂静の実践を行なうかで決まるのです。しっかり頑張ってください。

＊タントラ・ヴァジラヤーナ、テーラヴァーダ　仏教における修行の一形態。

＊ナーガ　第一天界にある統治変化自在天空天の天候を司る神々である龍のこと。
＊ガンダッバ　第一天界の音楽を司る神々。花香居半神音楽神ともいう。
＊インドラ　第二天界である三十三天（忉利天）の王。帝釈天ともいう。

＊「死のプロセスを生きている間に経験」

尊師ご自身、死のプロセスを体験なさっている。次の文章はその「死の体験」を尊師がお書きになったものである。

◎バルドのヨーガ――死の体験

次にわたしはマニプーラ・チャクラに精神集中をしてみた。この行でわたしはバルド（死）の体験をした。

（略）

だいたい、死んでみなければ実際がわからない、というのが不安であり恐怖でもある。反対に死んでしまったら、「本当はこうだったんだよ」と遺された人に伝えたくてもその術がない。生あるものは皆、遅かれ早かれ死を迎えるというのに、不都合このうえない。

ところが、わたしはマニプーラ・チャクラに精神集中をするこの＜バルドのヨーガ＞を実践することによって、死と転生のプロセスを何回も何回も体験することができたのだ。誰でも三昧に入ることができるようになったら、自分で体験することができるだろう。しかし、これから修行に入るという皆さんにはまだ無理だろうから、参考のためにここでお話ししよう。

◎死の瞬間

まず、死の瞬間から。死の直前には、感覚器官が動かなくなってしまう。よくテレビなんかの臨終シーンで、明るいのに「暗いから電気をつけて」などということがある。あれは本当だ。音が聞こえなくなることから始まって、何も見えなくなってしまう。そして、嗅覚も味覚も触覚も次々と衰えていってしまうのだ。

それから、意外なことに、まだ生きているうちから身体を構成している要素が分解し始める。分解されて、＜自性＞に還元されていく。自性とは、この世を構成している物質的な根源で＜地＞＜水＞＜火＞＜風＞の４つのエレメントからできている。

初めに、肉体が地のエレメントに分解される。このときは、自分の体がぶよぶよになるというか、何となく変な感じだ。そして、それを感じているのは、今までの自分ではない。もう一人の自分――、つまり魂がそれを感じているのだ。また、この過程では、黒と黄色の混ざったような色を見ることができる。

次に、血液や体液が水のエレメントに分解される。このときには、鼻汁が出たり体がむくんだりする。血液の流れもこのとき止まってしまうのだ。ヴィジョンとしては、「水に映る白い月」というイメージの色がパッ、パッ、パッときらめいている。

らめいている。

さて、今度は、体温が火のエレメントに分解されていく番だ。下腹部から冷えてきて、その冷たさは背中を伝わって全身に広がっていく。体が冷たくなって、動きがぎこちない。硬直しているのだろう。自分の体がまるで鉄になってしまったみたいだ。また、この過程では朱色が見え続けている。

最後に、息が風のエレメントに分解される。このときは、呼吸しづらくなってしまって、息苦しい。呼吸したい。呼吸して生き続けたい。そういう生命に対する押さえがたい執着が、一気に表面化する。愛している人と別れるのは嫌だ。死ぬのは怖い！ 既に、肉体的な痛みや苦痛はないが、死ぬことに対するひどい恐怖を感じるのは決して避けられない。わたしはそれを経験した。嫌だと思った。でも、わたしの気持ちなどにはおかまいなしに、死ぬための手続きは進んでいってしまった。魂は、青緑色を見ている。呼吸が少しせわしくなったかと思うと、最期に長い息を吐き出す。……そして、すべてが終了した。こうやってわたしは死んだ。

麻原彰晃尊師著 『生死を超える』オウム出版より

《対談》死の科学的探究

今回の「真理探究」では、修行のメリット、特に「死」というものに対してどのように有効なのかということについて見ていきたいと思います。

松原　では、まずはじめに、今まで行なった実験についてもう一回解説してただけますか。

聖者サンジャヤ　はい。この番組で扱ってきた主な実験の内容は、サマディと呼ばれる究極の瞑想状態の科学的検証、そしてショックに対する心の強さの修行ステージによる違いでした。

《サマディの科学的検証》

サマディ

松原　まず、サマディの実験から振り返ってみましょう。

いにしえの仏典には、究極の瞑想状態であるサマディに入ると、呼吸が停止すると記載されています。

このときの実験は、この仏典の記載事項を科学的に実証しようというものでした。では、実験についての解説をお願いします。

豊田　はい。このサマディの実験では、被験者に密

室の中で瞑想してもらいました。そして、その際の密室内部の酸素濃度の変化を測定しました。

この実験の大きな特徴としては、密室に空気の漏れがないことを証明するために、密室自体を大きな水槽の中に沈めて、その気密性を客観的に証明している点にあります。

→チェンバーの構造についてはP27を参照

これがそのときの酸素消費量のグラフです。この実験では、なんと11時間20分の呼吸停止が見られました。

→図1参照

松原　やっぱり、何回見てもこのグラフには驚くべきものがありますね。

豊田　そうですね。

松原　このグラフについて、医学的な見地から見るとどのようなことがいえるのですか。

聖者サンジャヤ　参考となるものとして、ドリンカーの生存曲線というものがあります。

→ドリンカーの生存曲線P84参照

これは呼吸停止が続いた時間と蘇生率をグラフにしたものですが、このグラフによれば10分間呼吸が止まった場合、死亡率がほぼ100パーセント近くになります。

松原　10分どころか、この実験では11時間20分呼吸が止まっていたんでしたよね……。

聖者サンジャヤ　はい。そうですね。

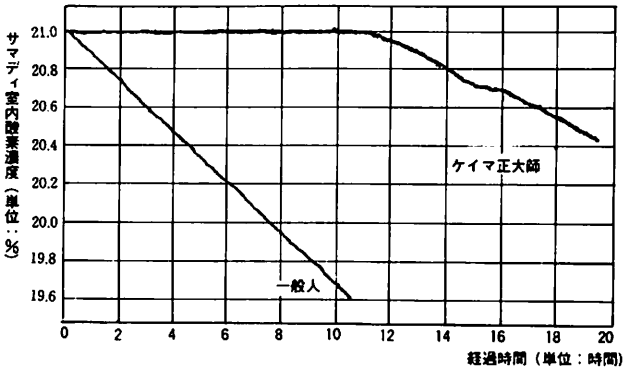


図1　聖者マハー・ケイマ最上善逝のサマディ室内の酸素濃度の変化

サマディ中の意識
——光の中に存在する意識

松原　常識では考えられないことですね。ところで尊師、このとき、修行者の肉体や意識はどういう状態なのですか。

尊師　このときの肉体および意識は、まず意識から説明すると、完全なる覚醒状態、つまり光の中に意識が存在する状態を経験しています。そして肉体は機能的には完全なる停止が起きているとみることができるでしょう。

松原　意識は鮮明ということですが、このとき聖者マハー・ケイマ最上善逝はサマディ中、具体的にどのような経験をされていたのでしょうか。

聖者サンジャヤ　それについては先日もご紹介しましたが、体験談があります。

聖者マハー・ケイマ最上善逝の体験談

聖者マハー・ケイマ　サマディに入っているときの意識状態は非常に鮮明で、サマディが深くなればなるほどますます鮮明になり、自分の周りの光も強くなっていきます。肉体に意識がある状態と同時に、光の世界にも意識が入っている状態ですね。

深い瞑想に入ると身体の代謝が落ちるのはよく知られていますけれど、サマディに入ると完全に肉体の機能は停止します。

肉体の機能が完全に停止すると同時に、思考も停止して雑念がまったくわかない、まったく雑念のない状態になります。このときはまったく感情もありません。意識は完全に研ぎ澄まされた状態です。そして完全に自己の肉体をコントロールしている状態です。ですから肉体に意識があってもいいですし、肉体から変化身が抜け出して意識が外側に外れるのも、自分で分かっていますし、コントロールできます。

そして、このときは時間の感覚はまったくありません。自分としては時が止まっているような状態、多分時が自分の外側にあって、自分と無関係に流れている状態になります。いうならば、時を超えた状態ということができるのではないでしょうか。

普通死んでしまったら意識は肉体に戻ることは

ありません。しかし、サマディは自己の肉体と心を完全にコントロールしますから、サマディに入ることができたら、生死を超えた本当の自由を得ることができたといえるのではないでしょうか。

死とサマディ

松原　なるほど……ということは、サマディに入っている修行者の肉体は死と同じ状態、つまり呼吸停止その他すべての生理機能の停止状態にあるといいますが、内的に様々な体験をしているわけですよね。

尊師　ただ、死とは一つ違いがあるということがいえます。それは何かというと、人間の死よりより深い意識状態に意識が固定されるのです。つまり、コーザルに意識が移行しない限り死んでしまうということが、これはヨーガの経典や仏典でもうたわれているわけですが、これはわたしの経験からもそうだけども、死を超えた最も深い意識の層に意識が固定されているということがいえると思います。

つまり、一般の人間の死というものは、それよりも浅い、例えば、表層意識から潜在意識に移行してそして低位のアストラル世界に移行し、それから次の生を迎えるわけだが、このサマディの状態のときは確実にもう一つ深い意識状態、つまり、コーザルに意識が固定されている状態であるということが

＊コーザル
コーザルとはヨーガにおける言葉で、非形状界ともいう。光優位のデータの世界。これは、上位・中位・下位と3つに分かれている。上へ行くほど、透明な光が強くなり、光が情報として存在している。

＊アストラル
アストラルとはヨーガにおける言葉で、形状界ともいう。音優位の微細な物質でできた世界で、上位形状界と下位形状界に分かれている。

できると思います。

松原　今のようなお話を伺って、肉体以外の何らかの意識体、いわば、魂とでもいえるようなものの存在も、わたしとしては感じたのですが。

尊師　魂の本質と合一するというか、そういう状態だね。

松原　ああ……。

尊師　なぜここで、死と区別したかというと、一般的に肉体の単純な死の場合には、そこでとうぜん肉体は滅びるわけだけども、滅びない一つの理由は、もう一つ深い、コーザルと意識が合一しているがゆえに、生じるんだと考えています。

ここはたいへん重要なとこだけども、よく「彼岸」、あるいは「対岸に渡る」という言葉を使うわけだが、このアストラルがちょうど海の役割を果たしていて、そのアストラルを超えてコーザルへ渡ること、これを「対岸に渡る」あるいは「彼岸に行く」という意味である、と仏典では説かれています。

したがって、サマディに入るということはこの対岸に渡った者ということができるでしょう。

松原　そうしますとこの、対岸から見るということで、生および死のプロセスが非常によく理解できるということになるわけですね。

尊師　はいそうです。つまりそこへ至って初めて、生と死のプロセスが完全に理解できる、ということになります。

死を超越した死の経験

松原　それからですね、尊師、質問があるんですが、このときの聖者マハー・ケイマ最上善逝の体験というのは、魂の経験といいますか、言い換えれば死後の世界、と同じなのかどうかということについてお伺いしたいんですが。

尊師　死後の世界は一般的には、こちら側から経験し――「こちら側」というのはこの肉体側から経験し、そして死、そして再生を繰り返すわけだけども、あのマハー・ケイマ最上善逝の場合、そうではなく、いったんこの肉体から先程述べたアストラルを通過し、コーザルへ至り、コーザルに至った点からこちら側の岸を見ているということがいえると思います。したがって、死を超越した死の経験、ということはできるでしょう。

《修行ステージとショックに対する強さ》

修行による不動心を検証

松原　では、次の実験、修行ステージとショックに対する強さについて見ていきましょう。では聖者サンジャヤ、お願いします。

→各ステージについてはP39参照

聖者サンジャヤ　はい。修行すると心が安定し、様々

な外的刺激に対して影響されにくくなるということは、修行をしている者にとっては体験的にわかることなのですが、このことを実際に科学的に実証しようと試みました。

具体的には被験者にサイレンを鳴らすことによってショックを与え、心拍数および発汗による皮膚電気抵抗の変化を調べました。

その結果、心拍数、皮膚電気抵抗の変化のいずれについても、高いステージの修行者ほど、ショックを受けにくくなっていることが実験により検証されました。

→図2、図3参照

オウム真理教の目的

松原　尊師は確かこの回の番組の中で「オウム真理教の目的としているところが科学的に証明された」と言われてましたが、これについてはどういうこと

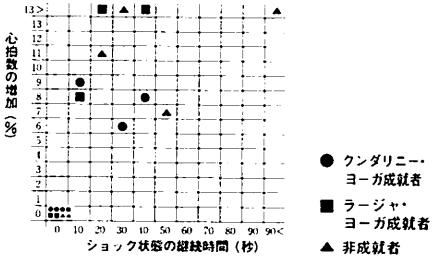


図2　心拍数変化

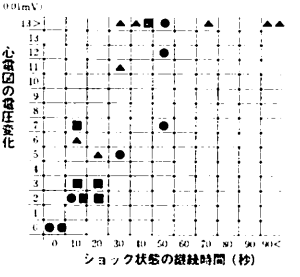


図3　発汗による皮膚電気抵抗の変化

なのですか。

尊師　オウム真理教の目的としていることは、外的刺激、これは先程も述べたとおり感覚器官からくるものと、意識からくる、この2つの影響を受けない状態をつくりあげること、それこそ救済であると考えています。というのは、それらの刺激によってわたしたちは死後ショックを受け、そこで気絶し、そして、せっかく生前に学んだいろいろな教えを、そこで完全に放棄しなければならない状態が形成されます。しかし、もしわたしたちがそれらの外的ショックに対して動ずることなく、しっかりとエネルギーの流れと、そして意識のコントロールができるならば、わたしたちは自在に自分自身のカルマの中で最高のカルマを現象化し高い世界へと生まれ変わることができるのです。そのような意味においてオウム真理教の目的が一つ達成されたと説明したわけです。

死後ショック

松原　その、死後ショックというものについてもう少し説明していただけますか。

尊師　わたしたちが亡くなるときに、必ず地元素・水元素・火元素・風元素の崩壊が起きます。それらの崩壊にともない、わたしたちのエネルギーは徐々に心臓に集中します。そして、心臓に集中したエネ

＊地元素・水元素・火元素・風元素 → P107図4参照

ルギーの流れは、わたしたちが生前に培ってきたカルマの構成にしたがって次の生を決定するためのエネルギーの流れへと移行するわけです。ところが、次の生を構成するそのカルマの流れがあまりにも強く、しかもそのカルマが大きな障害となる場合、エネルギーとそのカルマとのぶつかり合いによって大きなショックを受けます。それによって死後ショックが形成されるわけです。

松原　死後ショックを受けないことによって、どういうメリットがあるのでしょうか。

尊師　簡単にいうと、生前学んできた、例えば死から生への教え等があるわけだけど、それらのものをすべて活用して、次の輪廻転生ができるということがいえるだろうね。ところが、いったんショックを受けると、そのショックの強さによっては完全にそれらを忘却した状態になる、ということがいえます。

松原　今回は、今までの実験を、死というテーマに沿って考えてきたわけですが、尊師、最後に何かコメントをいただけますか。

カルマ——次の生を決定する力

尊師　今回の番組で新しく使った言葉「カルマ」について説明することによって、この番組を終了したいと思います。

カルマとは、わたしたちが日々行なっている言葉の力、あるいは行動、あるいは心の働き等が、総合的に「死」というものを境

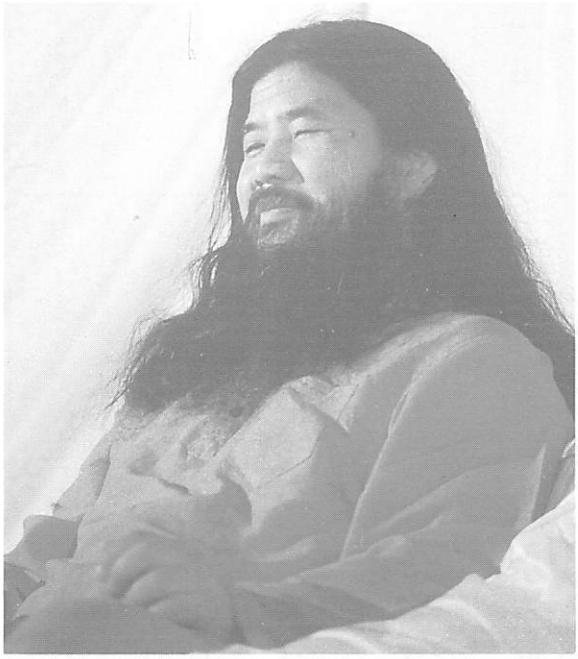
＊地元素・水元素・火元素・風元素

地元素・水元素・火元素・風元素とは、わたしたちの身体を構成するエレメント。この4つに空元素を加えたものを五大エレメントと呼ぶ。

色	黄	白	赤	緑	青
元素	地	水	火	風	空
対応する体の構成要素	肉	血 液	体 温	エネルギー	空間（肺など）
対応するチャクラ	ムーラダーラ	スヴァディスターナ	マニプーラ	アナハタ	ヴィシュッダ
対応する感覚器官	嗅覚	味覚	視覚	触覚	聴覚

図4　五大エレメント
『超能力秘密のカリキュラム 健康編』より

に、次の生を決定する要因となるものであると、ここでは定義しましょう。というのは、もともとカルマには生前現象化する、つまり生きている間に新しい経験をさせるための力となるものと、それから生きている間は力とならず、死を境に次の生を決定する力となるものの２つが存在します。そして、今回使ったのはその後者のほうであると理解してください。



第5章　生命の尊厳と生物の形態

《対談》生命の尊厳と生物の形態

キリスト教の一部に重大な誤り ——人間と動物を区別

松原　今回の「真理探究」では趣を変え、麻原彰晃尊師のお説きになる教えの検証をしてみたいと考えています。

スタジオには、尊師の高弟であり、ドクターでもある聖者ヴァジラティッサ到達光師をお招きしております。聖者ヴァジラティッサ到達光師、どうぞよろしくお願いします。

聖者ヴァジラティッサ　よろしくお願いいたします。

松原　さて、尊師は最近のご説法の中で、キリスト教の一部に重大な誤りがあると指摘されていますね。

聖者ヴァジラティッサ　はい。尊師は、イエス・キリストの教えを否定されているわけではなく、イエス・キリストの弟子たちが広めたキリスト教に問題があると言われているわけなのですが、その問題の一部が、キリスト教における人間と動物を区別する考え方です。そして、その考え方があるがゆえに、例えば自分たちが食べるために動物を殺しても平

気であるなど、重い殺生のカルマを積んでいると指摘されているのです。

松原　これは、キリスト教思想に大きな波紋を投じることになりそうですね。

聖者ヴァジラティッサ　そう思います。尊師はわたしたちが何一つ気づかずに見過ごしてしまっている様々な事象を厳しく見、鋭く分析されているんですね。

松原　そうですね。それではさっそく問題のご説法をお送りすることにしましょう。1992年12月27日、日本の京都支部においてのご説法です。

◉「尊師説法」　1992年12月27日　於・オウム真理教京都支部

「創造主は、わたしたちの友として、動物あるいは魚といったようなものをつくった」――と聖書には記載されている。しかし、この「魚」あるいは「動物」といったものがわたしたちの友なのかどうかは、たいへん疑問である。「友」という場合、それはわたしたちとは別個の存在であり、また、わたしたちが決して同化し得ない対象である、ということができる。

現象を分析する場合、2つの謬見解が存在し、その2つの謬見解の一方は、カルマにならない謬見解であり、もう一方はカルマになる謬見解ということができる。では例えば、カルマにならない謬見解とは何かと。ここに砂糖があったとして、その砂糖をみんながなめると。そして「この砂糖は酸っぱい」というと。現代のわたしたちの感覚器官からいくと、「甘い」という言葉が当てはまるこの砂糖に対して、「酸っぱい」という字を当てたとして、

それがもし万人共通になったとしても、この酸っぱさ、「酸っぱい」という言葉が今の「甘い」という意味をしっかりと意味づけているとするならば、それは「甘い」という漢字、あるいは「酸っぱい」という漢字、あるいは「甘い」という言葉、「酸っぱい」という言葉のどちらでもいいのである。

この典型的な例が中国における春の色である。中国では春の色を表わすのに「青」という言葉を使った。しかし、これは「青によし」という言葉が緑を表わすのと同じように、明らかに現代の色彩感覚では「緑」である。しかし、中国人にとって、この四季のスタートである春の色は現代人の見る緑、これを彼らは「青」と定義したにすぎないわけである。したがって、これらは、現代から見るならば謬見解に一見見えそうだが、現実の問題として何の問題もなく、また何のカルマにもならない問題である。

ところが、「動物は人間とは違う」「魚は人間とは違う」という定義をしている宗教の本質、これは明らかに謬見解であり、多くのカルマをその法則を流布することにより積んでいるということができる。ではこれは、どのようなカルマを積んでいるのだろうかと。

「人間は人間にしか転生しない」「動物は動物にしか転生しない」、これはわたし自身以前から疑問を持っていた内容である。この、「人間は人間にしか転生せず、動物は動物にしか転生しない」という考え方は、もっぱらキリスト教的な思想に反映されているわけだが、これをどのようにして正しくない理論である、つまり、仏教的な、すべては輪廻転生によって生じる、そしてその輪廻転生のカテゴリーにはわたしたちですら入っており、わたしたちも動物あるいは魚等に生まれ変わる可能性があるということを証

明しようかと検討していたと。

そして今日エンパワーメントの最中に、一つひらめいたと。そうかと。この法則をもし君たちに説き明かすことができるなら、君たちは「人間は人間として生まれる」ではなく、人間は多くの要素を内在し、そして人間以外のものに生まれ変わる可能性が十分に存在するんだ、可能性があるんだということを認識できるようになるであろう。

それはこうである。わたしたちの意識が母胎に内在する時期を、密教においては卵子と精子の結合の時期と考える。この卵子はとうぜん単細胞だし、精子も単細胞であると。そして卵子と精子が結合したもの、これも単細胞であると。この卵子の大きさはだいたい0.12ミリメーター、つまり120ミクロンから0.15ミリメートル、つまり150ミクロンであると。この卵子のはじめの状態は単細胞である。つまりわたしたちの意識が引き込まれる時期、これは単細胞の生命体のときに引き込まれるわけである。そして、その単細胞の生命体はどうなるかというと、細胞分裂を起こし、そしてハ虫類や両生類や、あるいは他のホ乳類や鳥類といったような形をとりながら、最終的に形を固定し、意識が今生生まれなければならない意識状態に固定され、そして人間としての生を受けるのである。

つまり、これは何を意味するかというと、同じように卵子と精子によって結合し、細胞分裂によって生じる他の動物、ホ乳類とまったく同じであるということができる。ということはこの2つの差は何かというと、まず母胎の形状が違うと。そして次に違うのは、出産のときの形状が違うというだけである。しかし、例えばこれらの肉体に対して多くの薬害等の影響を与えるならばど

うなるかというと、例えば手がなかったり、あるいは手が肩から直接ついているという「奇形」といった形で生まれると。つまり奇形として生まれる、その状態であってかつ意識は人間であるというサンプルをわたしたちは得ているわけである。

これらの現象に対するものの考え方は、「証智」という最も真理の実践において正しい見解を培うための土台に不可欠なことであるということができる。つまりこの点から考えると、「人間は人間としてしか転生しない」という考え方にはっきりとした決別をすることができるのである。なぜならばわたしたち自体が単細胞の生命体から母胎で変化し、そして今の人間の形を形成しているからである。もし、この見解が正しくないとするならば、堕胎は罪になることはない。しかし、最も厳密なキリスト教であるカトリックはこれを禁止していると。そして別の教えでは「人間は人間として生まれる」という教えを説いていると。この２つの相矛盾するものの考え方に対して、だれ一人として検討しないと。

では、この謬見解はどのようなカルマを形成するのだろうか。それはわたしたちが差別として、「人間は偉大である」と、「動物や魚は偉大ではない」と、「人間は賢い」と、「動物や魚は賢くない」といったような差別的な識別、この差別的な識別に対して大きなダメージを与えることになる。なぜならばこれは、一つの意識連鎖であると。つまり、単細胞の状態でわたしたちの意識が封じ込められるということは、とうぜん単細胞の生命体から、そして今のこの人間の形をした生命体までは、少なくともわたしたちと同じ意識を有しているのではないかと。

もちろん、そのときに使われる意識というものは、単細胞であればあるほど単純化された意識かもしれない。しかし、少なくと

も、今わたしたちがこの肉体を有して活発に動いている意識と、何ら変わらないものであることは間違いない。なぜならばわたしたち自体が母胎に内在するとき、単細胞の生命体の活動からスタートしたんだからと。そして、これにより多くの衆生、つまり動物や魚に対して、「かつてのまだ無明に覆われた意識によって規定されている粗雑な身体を有している魂である」と、「しかし、これはかつてのわたしである」という考え方がとうぜん生じてくるはずである。そして、そこから生じてくるものの考え方が「*聖哀れみ」であり、あるいは「*聖慈愛」なのである。ここがキリスト教と、要するに仏教の違いであるということができる。ではなぜ、このような間違った見解をキリスト教徒は生じさせたのだろうかという問題がある。これはいたって簡単である。

例えば、もしわたしが十字架に架けられるとした場合、今のわたしの高弟たちは自分の身をていしてそれを阻止しようとするだろう。あるいは十字架に架けられるわたしを見て、彼らは堂々と「わたしは麻原の弟子である」と言い切ることができるであろう。しかし、イエスの高弟と呼ばれた十二使徒は、だれ一人としてそれをなさなかったわけである。つまり、言い方を換えれば、たいへん精神レベルが低かったということができる。そして、イエスそのものが十二使徒に対して、「自分自身の法則を説きなさい」と説いたのは復活後である。この復活というものは、十二使徒以外はだれも見ていないと。正確に言うならば十二使徒とイエスの在家の弟子たち少数が見たにすぎない。これは明らかにアストラルでの経験であり、この現実の生活での復活ではないことを意味している。

これは非常に大きな問題がある。つまり、十字架に架けられる

前のキリストに対する十二使徒の態度から見て、完全なる魔境の弟子たちが12人そろっていたと考えるべきである。つまり、自己を保全するような意識の持ち主の者たちが、12人そろっていたと。この者たちが、イエスの十字架に架けられた後の復活によって改心したとしても、それは要するにエゴイスティックな理解、エゴイスティックな霊的な体験を得たにすぎないということができる。

このエゴイスティックな理解、エゴイスティックな霊的な体験の影響を受けた弟子のまた弟子となると、いかがなものであろうかと。わたしがイエス・キリストの立場であるとするならば、このような弟子に対して「あなた方は法則をわたしの死後広めなさい」とか、あるいはアストラルで「あなた方は法則を広める義務がある」などとは決して言わない。

そして、キリストそのものがこの世紀末、「自分自身の教えをしっかりと証明し、そして正す魂が登場する」と説いている。「その魂の役割は証明によって明かす」と説いていると。この「証明」という言葉はまさにギリシャ語でいうならば、マルテュレーオー、たいへんその語源がマイトレーヤと似た言葉なのである。ここで「マイトレーヤ」という単語が出てくるわけである。そして、この輪廻転生のプロセスを正しく理解することのできない教えが世界に広まり、世界の経済・軍事等を支配しているのが現状である。

ということは、この世の中は病んでいる時代ということができる。また、精神異常の時代ということができる。そして魚や動物と自分との区別は、ひいては人間間の個々の区別となり、そしてプライドを喚起させ、それによってエゴを構築するわけである。

したがって皆さんは、現象に対しては淡々と絶えず真理の法則

＊聖哀れみ　仏教における四無量心の2番目の心の実践。聖哀れみは、自分自身の不幸、あるいは自分自身の苦しみについて悲しむのではなく、すべての魂の苦しみに対して悲しむ心のこと。

＊聖慈愛　仏教における四無量心の1番目の心の実践。この慈愛は、キリスト教でいう愛とまったく同じ意味合いである。つまり、すべての魂の成長を願う心。例えば、あなた方の隣人、あなた方の知人、あなた方の友人、あなた方の親族等が、1人1人本当に真理を知り、そして真理を実践することにより、心が浄化され、言葉が浄化され、行為が浄化され、高い世界へ至ってほしいと願う心、これが慈愛なのである。

ここで、愛情との区別をしなければならない。愛情とは煩悩である。つまり、相手を好きになりたい。あるいは、その相手が豊かになってほしい。あるいは、好きな相手が出世してほしい等である。しかし、これらはすべて見返りを求める心が対象となっている。よって、慈愛と愛情は違うのである。

麻原彰晃尊師著『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より

＊マルテュレーオー：ギリシア語では、ＭＡＰＴＴＰＥΩ　とつづる。

にのっとり検討し、そして1つでも2つでも真理を悟ってほしいと思います。いいね。

松原　たいへん、示唆に富んだご説法でしたね。それでは、まず尊師のご説法の要点を整理してみましょう。聖者ヴァジラティッサ到達光師お願いします。

聖者ヴァジラティッサ　はい。次のように要点を箇条書きにしてみました。

①「動物と人間は違う」と定義している宗教の本質は謬見解であり、その法則を流布することにより多くのカルマを積んでいる。

②　真理の目からみるならば、人間は多くの要素を

内在し、人間以外のものに生まれ変わる可能性が十分に存在する。これは仏教的な輪廻思想の証明ともなりうる。

③　その根拠の一つとして、人間の意識が吹き込まれるのが受精の瞬間であり、その受精卵は単細胞である。それが細胞分裂を起こし、ハ虫類や両生類、鳥類、ホ乳類といった形をとりながら最終的に人間としての生を受けているにすぎない。

④　このような謬見解が存在し、精神異常の時代が形成されているのは、キリストの弟子の精神レベルがたいへん低く、イエスの教えが正しく伝わらなかったということに原因がある。

人間の誕生のプロセスと他の生物との比較

松原　それでは具体的な検証についてですが。

聖者ヴァジラティッサ　尊師がおっしゃられている人間の受精から誕生までのプロセスを他の生物と対比させてみたら一目瞭然なのではないでしょうか。

それではこれをご覧ください。

これが*図1ヒトの卵子と精子です。どちらも単細胞です。大きさは卵子が0.12から0.15ミリ、精子は尾の長いオタマジャクシ状をしていて、頭の大きさが0.01ミリぐらいです。

これが*図2ウニの精子と卵子の写真です。人間の精子

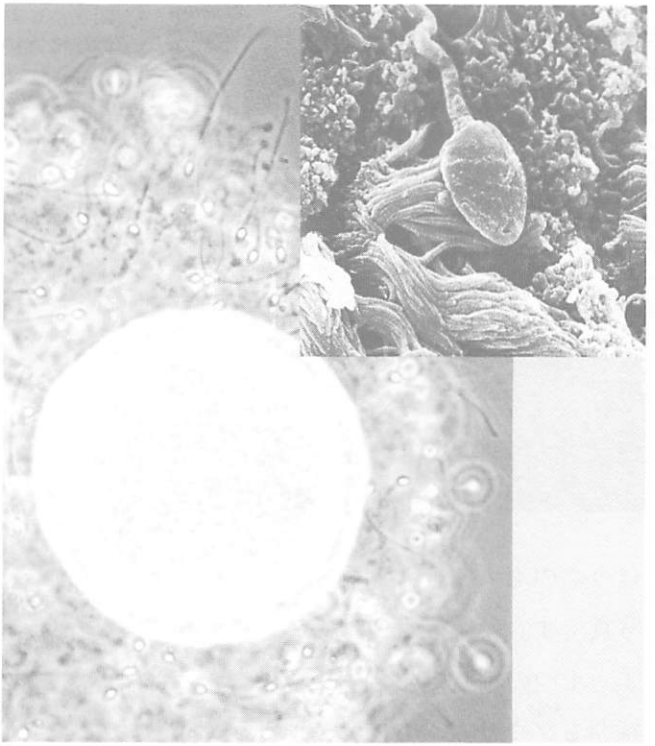


図1　ヒトの卵子と精子
『生まれる』講談社より

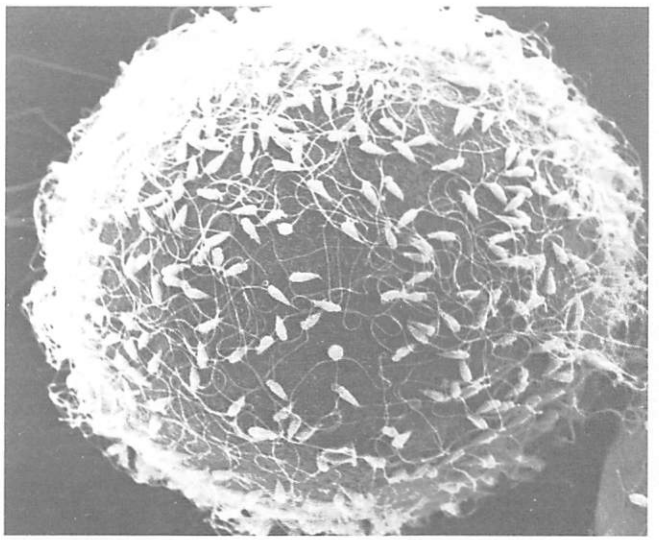


図2　ウニの卵子と精子
『発生生物学』トッパンより

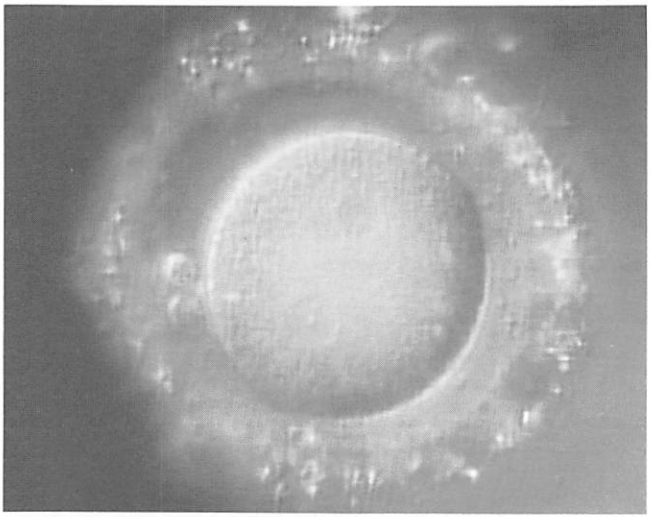


図3　ヒトの受精直後の受精卵
『NHKサイエンススペシャル　驚異の小宇宙　人体1　生命誕生』日本放送協会より

と卵子の形状はウニのものと変わりません。

受精直後[*図3]の写真です。受精後もしばらくの間は単細胞のままです。1つの細胞で生きているという点においては受精卵もゾウリムシ[*図4]も同じです。

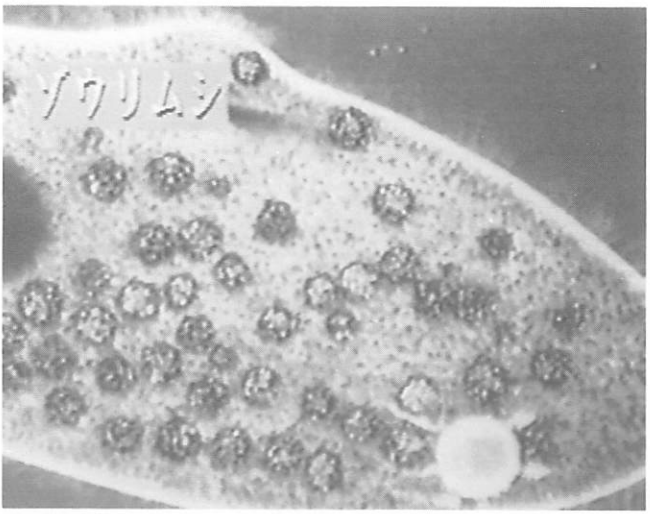


図4　ゾウリムシ

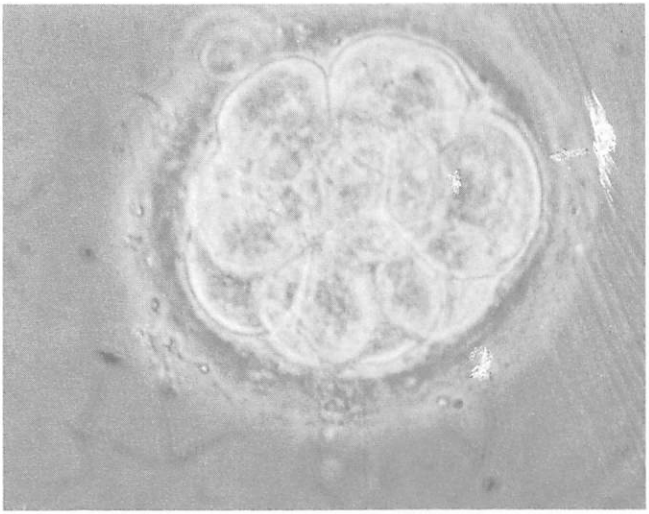


図5　ヒトの受精卵
『ヒト胎児発育カラーアトラス』南江堂より

*図5 ヒトの受精卵が細胞分裂を何回か行なった後の写真です。

こちらがウニの受精卵の写真です。

この時点では*図6ウニの受精卵と大差はありません。

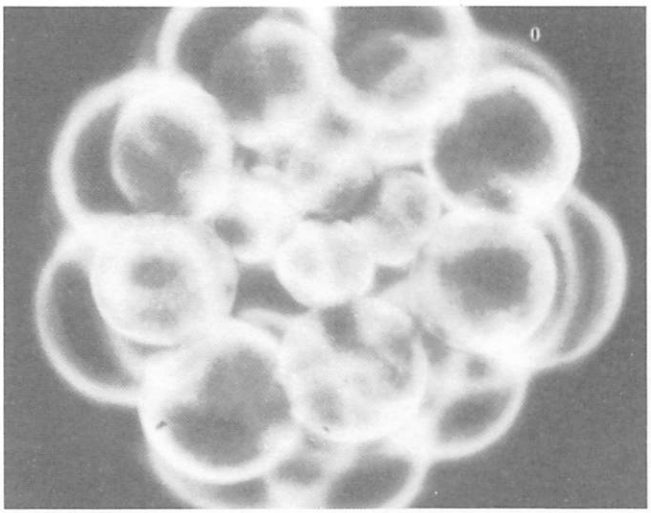


図6　ウニの受精卵
『発生生物学』トッパンより

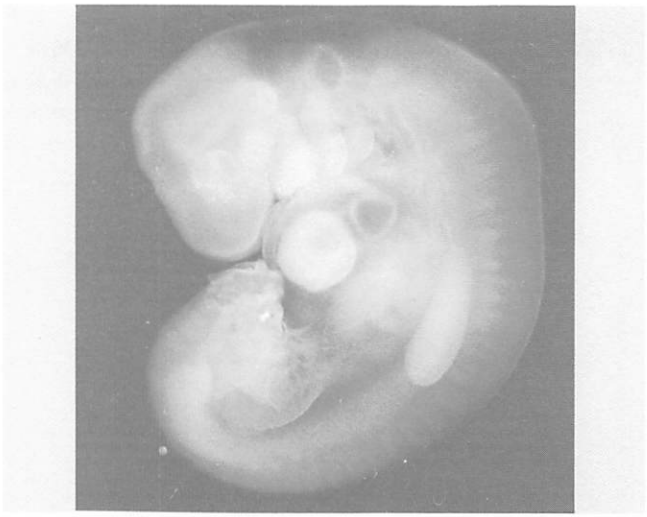


図7　受精後約28日のヒトの胎児
『うまれる』講談社より

これが*図7受精後約28日のヒトの胎児です。この写真をご覧ください。首のところに〝サイキュウ〟と呼ばれるエラのような切れ込みがあります。

*図8魚のふ化前の胚ですが、先程の段階のヒトの胎児

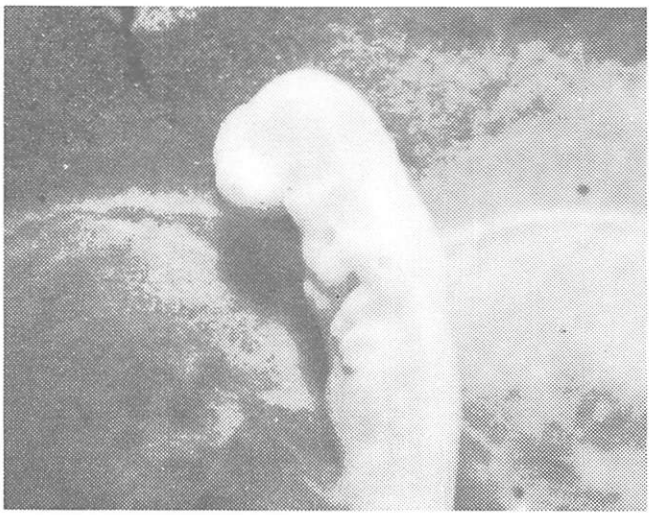


図8　魚の胚
『脊椎動物の発生』培風館より

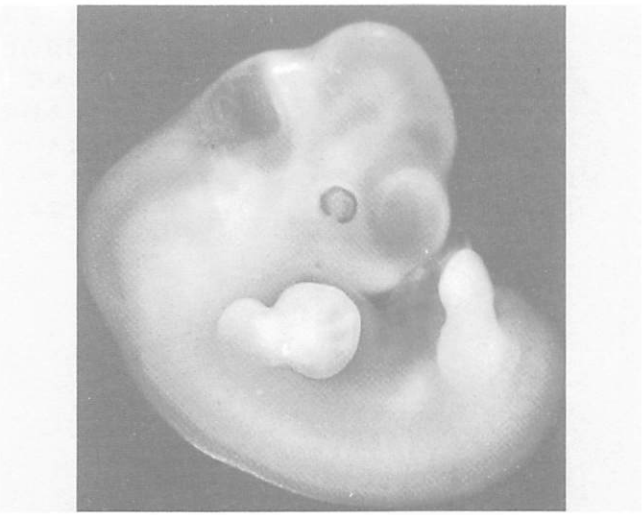


図９　受精後35日のヒトの胎児
『うまれる』講談社より

とよく似ています。

次は、*図9受精後約35日のヒトの胎児です。ご覧になっておわかりのように、しっぽが長くひれ状の手足ができ始めています。こちらの*図10ハ虫類のふ化前の胚と

図10　ハ虫類の胚
『脊椎動物の発生』培風館より

図11　受精後40日のヒトの胎児
『ヒト胎児発育カラーアトラス』南江堂より

酷似しています。

次は、*図11受精後約40日のヒトの胎児です。しっぽが長くなり、耳ができ始めています。この時期のヒトの胎児はこのように*図12豚の胎児と酷似しています。

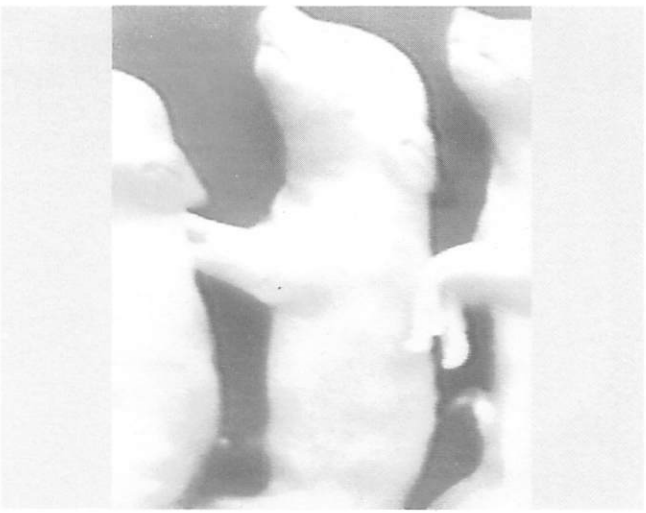


図12　豚の胎児

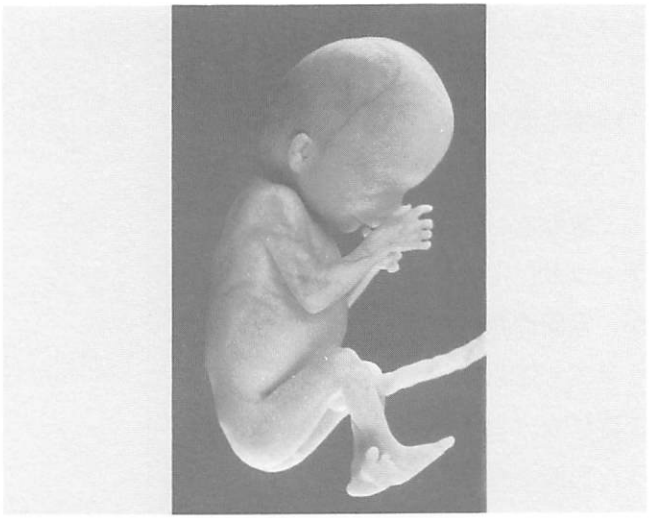


図13　受精後約13週のヒトの胎児
『ヒト胎児発育カラーアトラス』南江堂より

*図13 受精後約13週です。ほぼ人間らしくなりました。

聖者ヴァジラティッサ　そして最終的に人間としての誕生となるわけですが、人間と他の生物と差がないといわれている尊師のお話の意味がよくおわかりになったと思います。

松原　本当にそうですね。母胎の形状と誕生のときの形状が違うだけということになりますね。

生物の生命の重み

聖者ヴァジラティッサ　ええ。人間はそのことに気づかなければならなかったはずなのに、尊師が取り上げられるまでだれ一人この事実に気づかなかったわけです。だから最も厳密なキリスト教であるカトリックが堕胎を禁止している反面、他の生命体の

阻害を許しているという矛盾が生じているんですね。

松原　つまり、中絶を悪業として禁じているなら、同じ形態をとっている生物を殺すのも同じ悪業になるということですね。

聖者ヴァジラティッサ　そうです。そのいちばんわかりやすい例が、人間の意識が宿った受精卵が単細胞であるという事実だと思うのです。そして、その受精卵が先程ご覧になったように、魚類、は虫類、ほ乳類、といった形態をたどっていくのです。ですから、例えば魚の形態をとっている人間の胎児を殺すのと魚の子を殺すのとどこが違うんだ、同じではないかということになるのです。

松原　まったく同じ悪業になるんですね。

聖者ヴァジラティッサ　そして付け加えるならば、悪業を積み重ねることによって来世は低い世界、つまり、地獄・動物界・低級霊域へ生まれ変わってしまう、というのが尊師の教えであり、仏教でも同じことを説いているわけです。

松原　間違った教えに支配されて、知らず知らずのうちに悪業を積んでしまうのは恐ろしいことですね。

聖者ヴァジラティッサ　ええ、尊師は、現代人のほとんどは低い世界へ落ちてしまうだろうとおっしゃっています。この「真理探究」によって現代人が真理に気づいてくれたら、と期待しています。

＊地獄・動物・低級霊域

地獄・動物・低級霊域とは仏教における愛欲界の下から３つの世界である。ちなみに、愛欲界は６つのパートからなり、下から順に地獄界、動物界、低級霊域、人間界、意識堕落天、そして、戯れ堕落天に分類することができる。

◎激苦地獄

では、この愛欲界の一つずつについて検討していこう。

まず、初めは激苦地獄である。激苦地獄は、大きく分けて３つに分けることができる。その第一番目の激苦地獄は熱地獄であり、第２番目の激苦地獄は寒冷地獄であり、第三番目の激苦地獄は痛みの地獄である。

◎熱地獄

そして、この熱地獄には超期間激苦地獄や号叫（ごうきょう）激苦地獄などが存在する。

この超期間激苦地獄とは、熱にものすごく長い間侵されるのである。その長さといったら、それはこの宇宙が、何回となく、何十回となく、何百回となく、何千回となく、創造され、破壊される期間を繰り返す間、熱にさいなまれるのである。

もう一つの熱地獄は号叫激苦地獄である。ここの号叫激苦地獄では、その熱のために、熱の苦しみのために泣き叫ぶというところから、この地獄の意味合いが説かれている。

そして、この他に大地獄等の地獄があるわけだが、その細かい検討については、別の本にて述べることとする。

◎寒冷地獄

そして、第２番目の寒冷地獄、この第二番目の寒冷地獄は、できもの激苦地獄、これ以上にないできものの激苦地獄、大期間激苦地獄、悲痛苦痛の叫び声激苦地獄、地獄徘徊流転激苦地獄、黄蓮華のような状態になる激苦地獄、白睡蓮のような状態になる激苦地獄、青蓮華のような状態になる激苦地獄、白蓮華のような状態になる激苦地獄、紅蓮華のような状態になる激苦地獄に分類することができる。この期間は熱地獄以上に長いといわれている。

それでは、この一つ一つについて検討しよう。まず一番目のできもの激苦地獄は、これは氷を長い間当てるとその部分が凍傷を起こし、そして水泡が生じる。この状態を考えてほしい。そして、それが長期間経つと、これ以上にないできものの激苦地獄、つまり、大きな水泡が形成される。そして三番目が、大変長い間、その寒冷の地獄をさまよわなければならない激苦地獄である。もちろん、この大変長い間、大変な寒冷地獄を歩き続けるわけだから、悲痛苦痛の叫び声を上げることはいうまでもない。よって、この地獄の名前があるのである。

ここで一つ皆さんは考えなければならない。それはこの寒冷地獄の特徴は、その悪業が蓄積されればされるほど、冷たく、そして長い間、その地獄にいなければならないということなのである。

そして、この次に来る地獄は、地獄徘徊流転激苦地獄である。地獄は心の現われを中心として形成された世界である。よって、その人の冷淡さ、その人の冷たさが世界を形成することになる。そして、そこで腫れ物ができては死に、あるいはその寒さのために泣き叫んでは死に、またその世界へ生まれ変わると。これが、地獄徘徊流転激苦地獄である。

そして次に、寒冷のためにできた水泡、この水泡が少し裂ける。裂けると、その身体から黄色い汁が出てくる。この汁をもって黄蓮華激苦地獄というのである。この黄蓮華激苦地獄から先の地獄は、その状態のひどさを表わしている。

その黄色い汁の出る状態から、次はもっと裂け目がひどくなり、個数が増え、そして白睡蓮のように、内側から白いものが出だす。これが白睡蓮激苦地獄である。そして、冷たくなった血液が少しずつしみ出すようになり、この状態を青蓮華のような状態になる激苦地獄というふうに描写しているのである。そして、完全にこの静脈血が出なくなった後、その内側に白いもの、つまり皮下脂肪が見え、白蓮華のような状態になる激苦地獄が形成される。そして、それよりもう一歩進むと、その脂肪が取り除かれ、そして赤身が見えてくる。この赤身が見えてくる状態が紅蓮華のような状態になる激苦地獄なのである。

これは激苦地獄の概略である。これは追って地獄編をもっと詳しく書くつもりでいるから、そのとき詳しく皆さんにお教えしたいと思う。

◉動物界

次は動物界である。この動物界は、皆さんも知ってのとおり、皆さんの視覚的にとらえられる動物すべてだけではなく、この宇宙には多く動物が遍在している。その動物の特徴は、根本的無智であり、実際、動物の世界から高い世界へ転生する場合、それは積極的に高い世界へ転生することはできず、消極的な形でいいカルマを持っている者のみがそこから脱却することができるのである。

◉低級霊域

下から第三番目が低級霊域である。この低級霊域は、貪りのカルマの強い魂の行く世界であり、これは動物界と人間界の間に存在している。

例えば、人間の形状をしていても、生まれながらにして全く物を食べることができない、あるいはガンその他にかかり、死ぬ前に物が食べられなくなり、腹がパンパンに腫れ上がって死ぬ等は、これは低級霊域へ転生する現われなのである。　そして、この低級霊域はお互いがお互いを遮断し、自分の利益のみを考える魂が存在している世界ということになる。だいたい人にものを施さないで独り占めし、そして生きた魂は、次の生この世界へ転生するのである。

麻原彰晃尊師著　『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より

「真理の御霊がくるときには、あなた方をあらゆる真理に導いてくれるであろう。（ヨハネによる福音書　第16章13）」

第6章　サマディの科学的検証 Part2

1．低酸素状態での瞑想 I
2．低酸素状態での瞑想 II

1. 低酸素状態での瞑想 I

尊師説法　人間を超えて神々の世界へ

こんばんは。麻原彰晃です。

わたしたちは、神になる要素を有しています。

――いきなりこのようなことをいったとしても、あなた方は信じることができないかもしれない。しかし、例えばキリスト教の教えの中でも、「天界へ生まれ変わり、父なる神のもとで神の子として生存する」とうたわれています。仏典においては、もっとリアルな天界の内容、あるいは神々の内容が説かれています。これらの内容を総合して検討すると、次のように分類することができるでしょう。

まず第1は、わたしたちの持っている、もともと地獄やあるいは低級霊域や動物へ生まれ変わる、下位へ結び付けられたエネルギーの流れ、これを捨断すること。

そして第2段階では、人間の中でも劣った種の状態を経験すること。この「劣った種」とは、体力がない、気力がない、あるいは知力が劣っている等々を挙げることができます。

そして、その劣った人間から、徐々に高等な人間へと進化する。この「高等な人間への進化」とは何を意味するかというと、例えば非常に知性が高い、例えば非常に直感力が鋭い、例えば非常に体力がある等を挙げることができます。これらの優秀な人間、この優秀な人間の状態から、わたしたちは徐々に神の要素を呈するようになるのです。

もともと人間と神の違いの第1のポイントは、寿命が長いこと。この寿命が長いことについては、例えば多くのインドの聖者方が、自分たちの寿命を自由に決定し、そして死にたいときにこの肉体を捨てるという現象、あるいは100歳、150歳と長きにわたり瞑想修行を行なっているヨーガの修行者がヒマラヤの周辺にはたくさんいること等を考えても、人間が神へ至る一つのポイントとして寿命を挙げることができます。

この寿命と肉体の関係とは何であるかについて検討しなければなりません。もともとわたしたちの細胞は、何回まで再生を繰り返していいという規定が存在しているとヨーガの経典にはうたわれています。つまりもし、この細胞の代謝というものが落ちるならば、そのときにわたしたちは、わたしたちが考えている以上の長い人生、つまり長寿を得ることができるのです。

では、この長寿を得るため、つまり細胞の分裂回数を抑える作業としては、どのような方法があるのでしょうか。これはまさに酸素の消費、これをいかに少なくするかということがポイントとして挙げることができます。つまり、わたしたちの呼吸が少しずつ少しずつ長くなる、そして体内の酸素と二酸化炭素のガス交換が徐々に徐々にゆっくり行なわれるようになると、わたしたちの代謝は落ちます。そして、最終的には呼吸を完全に止めた状態で生活できるようになるのです。

この記載については、例えば、イエスの長きにわたる断食の記述や、あるいはサキャ神賢が弟子の前に現われて1回たりとも呼吸をしたことを弟子たちが見てないという『大完全煩悩破壊経』等の内容を検討するならば、よく理解することができるでしょう。

そして、この酸素と二酸化炭素のガス交換が行なわれなくなる

と、通常の状態、つまり普通に話し、普通に見、普通に嗅ぎ、普通に聞くといったような作業を通常どおり行なっていたとしても、その新陳代謝は、普通の人と比較すると、普通の人の安静時、あるいは安静時以下の状態へと移行します。もちろんこのときは、食事をあまり取らなくても体は普通に動くようになり、そして、その状態においては、まさに心の状態は安らいだ状態を経験するのです。そしてこの状態を真理においては「寂静」といっています。

この寂静の状態がどのようなかたちで現出し、そして、いったいそれは酸素の濃度とどのように関係があるのかについて次に検討しなければなりません。

もともと仏典においては、水中をサキャ神賢が自由に歩いたとか、あるいは弟子たちが水の中でまったく呼吸を止めてしまった、そして何時間も出てこなかったとか、あるいはヨーガの経典においても、ヨーガの偉大な聖者方が何時間、何日という間水中でサマディに入ったという記載を見てもわかるとおり、ほとんど呼吸しなくとも、生存することができることは間違いありません。そして最終的には、酸素消費ゼロの状態であったとしても生存は可能であると考えることができます。現に、インドの聖者の中では水中で30日間以上その状態を保持したという記載もあるくらいですから。

ところで、「この状態を科学的に検証できないか」という実験を、わたしと、そしてわたしの弟子たちは試みています。それが、俗にいうところのエアータイトサマディのチェンバーです。そして今の段階においては、少なくとも人間は、平地換算にして酸素濃度9.7パーセント前後までは通常の思考——まあ呼吸については*チェーンストークス式呼吸のような状態が起きますが——を行

なうことができることが証明されています。これについては、2人の成就者がその状態を経験していると。

しかし、これらの件について、一般の科学者はこのような反応をするかもしれません。それは「もともと、高地民族においては毛細血管の増大、および血中ヘモグロビンの増加によって、酸素の薄い状態でも訓練によって長く生存することができる、あるいは平気で低酸素の状態でも生活できる」という記述と実験が存在するからです。しかし、これらについては、一つの反論があります。それは、それらのいろいろな文献を検討した結果、そうなるためには、もともと生まれつきそういう高地に存在していたという条件が必須のように思われるからです。

ではなぜ修行者は、このような高地に存在していなかったとしてもそれが可能となるのでしょうか。それは先程も述べたとおり、まず心における煩悩を弱めることにより、体内の酸素と二酸化炭素のガス交換が少なくなるという現象を挙げることができるでしょう。そして最終的にサマディ、つまりいっさい煩悩を捨断した状態に至ると、肉体の状態は完全に停止し、この肉体から別の世界、つまり先程述べた、神々の世界へと移行することが可能になるのです。

さあ、ロシアの皆さん、あなたには未知の可能性が存在しているのです。あなたがもし神へ移行したい、神の要素を形成したいと考えるなら、今、この瞬間から修行するしかないんだということを認識していただきたいものです。

＊チェーンストークス式呼吸

一連の激しい呼吸と無呼吸とを繰り返す病的な周期性の呼吸。高山病、死期の迫ったときなどに見られる。

《対談》低酸素状態での瞑想Ⅰ

修行者の超人的な力

松原　今回の真理探究では、オウム真理教の成就者が持つ、超人的な力というところから入っていこうと思います。

オウム真理教の修行によって成就された方の中には、超人的な力を身につけていらっしゃる方がたくさんいますが、例えばどのような例があるんでしょうか。

聖者サンジャヤ　そうですね。体に1500ボルトの電圧がかかってもあまり影響を受けなかった人もいますね。

聖者ヴァジラティッサ　ほかにも聖者マハー・ケイマ最上善逝のように11時間20分の長きにわたって呼吸が停止した例もありましたね。

尊師　超人的な例としては、遠隔透耳を行なう人や、あるいは遠隔透視を行なう人や、あるいは他人の心が即わかってしまう例、あるいは水中クンバカにおいて約15分間水中で呼吸を停止した例、等々たくさんあると思います。

松原　最近、そのような例があったということを伺っ

＊遠隔透耳→次ページ参照
＊他人の心がわかる→次ページ参照

＊遠隔透耳――天耳通

天耳通ともいう。

瞑想によって天耳界に入ることによって、〝遠くや近くの音、また天界や人間界の声〟を聞くこと。その声は地球のどこにいても瞬間的に伝わってくる。なぜなら、天耳界というのはアストラル世界（異次元）の中の一つであって、この特殊な空間を使って音や声が伝わるからである。

原始仏典に属する『南伝大蔵経』には、こう記されている。

「このように、向煩悩滅尽多学男が四つの如意の基礎を修習し、真面目に行なうならば、様々な種類の如意を経験する。…（中略）……このように、向煩悩滅尽多学男が四つの如意の基礎を修習し、真面目に行なうならば、清浄であって人間を超越した天耳通において、神々や人々、あるいは、遠くや近くの双方の音声を聞くのである。」

（『相応部経典』「如意の基礎相応（11）」より）

＊他人の心がわかる――他心通

この欲六界において、絶対という言葉は存在しない。なぜならば、心の本質が無常を根本としているからである。しかし、数十年単位、少なくとも数年単位の短い期間においては、絶対という心の状態が存在している。それを知る力、これが「他心通」なのである。

相手の心が正義に基づいているのか、あるいはそうでないか、大きな心の持ち主であるのか、深遠な心の持ち主であるのか、浅薄な心の持ち主であるのか、あるいは情報に対して、迅速に反応するのか、スローに反応するのか、貪りの心を持っているのか、反対に布施する心を持っているのか、真理のデータが根づいているのか、無智のデータに覆われてるのか、真実をありのままに語るタイプなのか、それとも物事を嘘で固めるタイプなのか、人を尊敬する心を持っているのか、嫉妬心で固められた心なのか、人を簡単に裏切るのか、それが自己の不利益になったとしても約束を守るのか、人を排斥する心の持ち主なのか、人と和合する心の持ち主なのか、あるいは、異性を単に性欲の対象と見るのか、そうでないのか――他心通に熟達すると、こういう人の心が手に取るようにわかるのである。なぜなら、心の状態を視覚的に見ることができるようになるからである。

この力は、初期の段階においては、まだ視覚的に相手の心を見ることまではできない。ただ相手の心に自分の心が感応する形で相手の心を知ることができる。これは何となくわかるといった感じである。次の段階になると、感応しなくても、相手の発するヴァイブレーションを察知するという形で、この神通力

が現われるようになる。つまり、自分の心と別個にそういうヴァイブレーションを発している心の存在を知るのである。例えば、自分が空腹でないにもかかわらず、空腹のストレスのヴァイブレーションを察知するということなどが挙げられる。そして、最終段階に到達するといよいよ視覚的に相手の心を認識することができるようになるのである。いうまでもなく、わたしの神通力はすでにこのレベルにあり、わたしはまさに相手の心を見ているのである。そして、それを見るのは心眼なのだ。

なお、他心通は、『南伝大蔵経』において、以下のように書き記されている。「このようにサマディに入り、心は欠点がなく浄化され、煩悩ではなく、煩悩を増長させるものを消滅して、柔軟で、役目に適し、集中継続して、不動を得たとき、彼は他心通に心を定め傾注するのです。

そこで、彼は他の生命体や他の魂の心を、自らの心によって把握して認識し理解します。」

『超越神力 【天耳通・他心通】』麻原彰晃尊師著 より

ているのですが。

低酸素状態での瞑想

聖者サンジャヤ はい。最近では通常の人間では耐えられないような低酸素濃度の状況で、瞑想を続けたという例がありました。

松原 それについて詳しく説明していただけますか。

聖者サンジャヤ はい。「真理探究」の第3回目でもご紹介申し上げましたが、オウム真理教にはクンダリニー・ヨーガの成就者が存在します。そして、クンダリニー・ヨーガの成就認定の条件の一つとして、5日間、密閉された、地中に埋められたチェ

ンバーの中で、断水断食という過酷な条件の下で瞑想を続けるということがあります。そしてそこでは、呼吸による酸素消費量が測定されています。しかし、今回紹介申し上げる高いステージの修行者は、不利な条件でチェンバーに入ったために、チェンバー内の酸素濃度がかなり低い値になったにもかかわらず、瞑想を続けることができたのです。その不利な条件というのは、チェンバー内の温度が低かったために、体温を維持するのに多量の酸素を消費しなければならなかったこと、などです。しかし、今回ご紹介申し上げる高いステージの修行者は、低酸素濃度の状況においても瞑想を続けることができたのです。

それでは、聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師の体験談をご紹介します。

聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師の体験談

聖者ヴァジラ・アナーサカ　5日目は酸素濃度も10%台になっていまして、最終的には10%から9.77まで落ちたわけですが、状態としては苦しい状態ではあったのですが、それほど苦しい状態ではないと。そして呼吸も、ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマという呼吸法がオウムにはあるわけなんですが、それより若干緩めの呼吸になっていました。それが約1日続いたのではないかと思いますが、そ

*ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマ
→次ページ参照

＊ヴァヤヴィヤ・クンバカ・プラーナーヤーマ

①蓮華座を組む。このとき、首と背中は真っすぐにして座る。
②手のひらを膝に置き、眉間に精神集中をする。
③両鼻孔ですばやく25回の呼吸を繰り返す。
④完全に息を吐きだした後、ジャーランダラ・バンダ（喉の引き締め）、ムーラ・バンダ（肛門の引き締め）、ウディヤーナ・バンダ（腹の引き締め）を行なう。息を吐ききったまま、できる限りそれを保持する。
⑤我慢できなくなったら、両鼻孔で息を吸う。そして、できる限り保持する。
⑥我慢できなくなったら、両鼻孔で勢いよく息を吐き出す。
⑦肉体的条件によって、回数を決めて繰り返す。しかし、40回以上繰り返してはならない。

●効果

・速やかにクンダリニーを覚醒させる。
・知能が高くなる。
・体重を減らし、体を細く強くする。
・若返る。
・慢性化した風邪を治し、痰を取り除く。

麻原彰晃尊師著『生死を超える』より

れでも呼吸としては非常に苦しいという状態ではなくて、そういう呼吸をしていれば、瞑想もできる状態でした。

松原　今体験談を話してくださった聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師は極厳修行中において、９日間の断水断食を成し遂げた強力な意志力の持ち主であるということをここで加えておきます。ところで、チェンバー内はどのような工夫がしてあり、測定が行なわれているのですか。

チェンバー——その緻密な構造

豊田　はい。測定においてはチェンバー、つまり被験者の入る密室の気密性がポイントになります。つまり空気の出入りがないということです。この点に関して我々は、ステンレス板の溶接によってこの問題を解決しました。また、気密性に関しては、内部を加圧あるいは減圧して、長時間放置してもその圧力が変化しないということによってチェックしています。そして、酸素濃度計の分解能は0.01%です。「分解能」というのは、酸素濃度の変化を識別できる精度のことです。

温度変化による測定誤差をなくすために、温調器によってチェンバー内は一定の温度に保たれています。

そして酸素濃度計がコンピューターにつながれて、データ処理がされています。

松原　なるほど。緻密な構造になっていますね。

ところで先程の話に戻ります。先程のチェンバー内において普通の人間では耐えられないような、低酸素濃度で無事でいられた例があったようですが、実際どれぐらいの濃度まで大丈夫だったのですか。

→チェンバー内の構造については P43、44、45 参照

酸素濃度と肉体的症状

聖者サンジャヤ　はい。この表はクンダリニー・ヨーガの成就者の、5日間のチェンバー内の酸素濃度の変化です。このように最終酸素濃度は9.77%になっています。

→図1参照

松原　酸素濃度とその酸素濃度における肉体的な症状については、その2つの間に何か関係があると思うのですが、それについてはいかがですか。

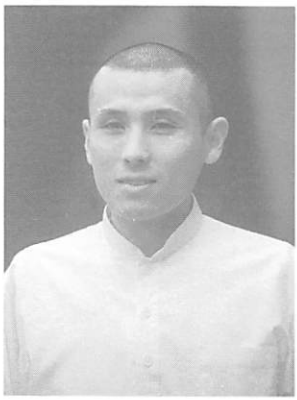
聖者ヴァジラティッサ　はい。それでは、表をご覧ください。

→P143図2参照

これによると、9.77%前後の酸素濃度では、意識不明に陥ったり、あるいは下手をすると死亡してしまうことがわかります。さらに密閉したチェンバー内では、酸素が消費されるとともに、呼吸にともなっ

図1　チェンバー内の酸素濃度の変化

開始直後	17.94
1日目	16.54
2日目	15.05
3日目	13.52
4日目	11.90
5日目	9.77



聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師

て二酸化炭素が増えますので、さらに条件は厳しいといえます。

尊師　ところでヴァジラティッサ師、この酸素濃度は標高6000メーターに値するんだよね。

聖者ヴァジラティッサ　はい、そのとおりです。

尊師　これは説法でも述べているが、もともとインドの聖者は6000メーター、7000メーターの地帯にも存在するといわれています。そしてその、聖者がその地域で生存できる可能性というものを今回の実験は示したのではないだろうか。どうだサンジャヤ到達光師。

聖者サンジャヤ　はい。わたしもそう思います。

なぜ低酸素で生存できるのか？ ——精神と肉体によるアプローチ

尊師　では、なぜこのように低酸素の状態で生存できるかということについて検討しなければならない。それは、もともとわたしたちが酸素を消費する理由としては、いろいろなストレス、あるいは煩悩による過呼吸を挙げることができると思います。例えば意識が緊張するならば、その分、当然酸素は消費されると。しかし、もし内側に人間よりも静かな心の状態を形成することができるならば、そのとき当然呼吸は静かになるわけです。

これが精神的なアプローチ。もう一つは肉体的なアプローチがあります。これは今のインドのハタ・

ヨーガやあるいはラージャ・ヨーガ等で行なわれている方法である。つまり呼吸の回数を徐々に徐々に少なくし、そして出息と入息を長くしていくと。これによって体内の酸素の取り入れを静かに、しかし少なくしていくと。そしてそれに対して心を慣れさせると。つまり、酸素の入りが少ないがゆえに、心の働きが鈍り、そして煩悩を鎮めるという方法であると。そして経典には「意」、つまり心の働きによってもわたしたちの心をコントロールできるし、あるいは呼吸の働きによってもコントロールできるといわれています。もちろんオウム真理教の修行は、この両方の修行を組み入れているわけです。

豊田　そうですか。ところで、真面目にオウム真理教の修行に取り組み、クンダリニー・ヨーガの成就を果たした聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師は、実際は低酸素の状況にあっても普通に瞑想したわけですよね。ですからこれはまさに驚異だと思いますが。どうでしょうか。

尊師　そうだね。もともと修行者が修行を行なう一つの目的というものは、低酸素の状態、あるいは酸素が完全に遮断された状態で、意識が鮮明な状態をつくり上げるということがポイントとして挙げられます。それはなぜかというと、まさにそれこそが死であるというふうに考えられてきたからです。そしてこの低酸素の状態でも、彼がはっきりとした意識によって瞑想ができているということは、まさに

になったのではないかと考えられます。

松原　ありがとうございました。締めくくりとして尊師のほうから何かコメントをいただけますか。

人間から神へ

尊師　人間が人間を超える。そして神になる。その状態が現出するとするならば、必ずそれは、この生存期間中、つまり修行期間中にいろいろな特別な変化が生じるはずです。そして今回の、この低酸素の状態で生存できるということは一つの特徴であるということができるでしょう。そしてこのようないろいろな特徴の積み上げによって、わたしたちは人間から神への道を歩いていくわけです。

さあ、あなた方も、しっかりと神の道を目指そうではありませんか。

図2　酸素濃度と症状

酸素濃度（%）	症　　状
16	頭痛、不安、呼吸・脈拍増加
14	視力障害、意識混濁、吐き気
12	筋けいれん、呼吸困難
10	顔面蒼白、意識不明
8	昏睡、8分で死亡
6	呼吸停止、即死

2. 低酸素状態での瞑想 II

尊師説法　過去世・現世・未来世を超えて

ロシアの皆さん、こんばんは。麻原彰晃です。

皆さんは「過去世」というものを信じていますか。もちろん「過去世」、あるいは「未来世」について信じることは、たいへん困難かもしれませんね。しかし、もともと、例えば共産主義の根本理念をなしている弁証法にしろ、過去・現在・未来、つまり時の流れというものを無視して考えることができないのと同じように、わたしたちも生まれた瞬間の個体差を検討すると、過去世の存在なしにその理由については答えることができないのです。

しかし、「物質的ものの考え方こそ最高である」と考える人たちにとって、この過去世の考え方というものは、現代、そして現在の自己の状態を固定することになるわけですから、あまり考えたくない命題ということになるでしょう。しかし「その人がそれを肯定しようと、否定しようとも過去世は存在し、また未来世は存在するんだ」というのが真理の教えということにほかなりません。

では、それについて、だれが説いているのか。

例えばイエス・キリストの例を挙げましょう。彼は「神のみもとから来た」と自分を表現しています。もし彼が「神のみもとから来た」魂であるとするならば、彼の前生は神の世界であったということができるでしょう。そして彼は人間として生まれ、若い

ときから宗教的生活に没頭し、そして三十数歳の寿命を閉じるわけです。そして彼は死ぬ前に、「わたしは神のみもとへ帰る」と言っています。ということは、イエス・キリストの教えはまさに過去、そして現在の人間の生、そして未来世、つまり天界の生という流れの一つの証明ではないでしょうか。もし、イエス・キリストの教えを信じないとするならば、話は別ですが。

ここでわたしのいう「イエス・キリストの教え」とは、ヨハネやパウロの教えではありません。あくまでも、イエス・キリストそのものが説いた教えの内容だけに限定されると考えていただきたいものです。

では、それはなぜでしょうか。それは、ヨハネにしろ、パウロにしろ、過去世を知らず、そして未来世を知らないからです。いくら偉大な聖者キリストの教えをじかに聞いたとしても、彼らの中に、実際に過去世、そして現世、そして来世という三つのカテゴリーの内容について知る力がなかったとするならば、彼らは普通の人より少し霊的に進化した魂にすぎず、当然霊的に進化した魂にすぎないということは、彼らの教えの中に多くの過ちを含んでいると考えるべきだからです。

ではなぜ、多くの過ちを含んでいるということができるのでしょうか。もし、キリストの弟子たちが、心が完全に浄化されているとするならば、過去世は見えて当たり前、あるいは未来世は見えて当たり前だからなのです。つまりこれらの神秘的な力を阻害するものは何であるか、それは心のけがれにほかならないのです。つまり、心のけがれがあるからこそ、過去世を知ることができず、あるいは未来世を知ることができないのです。

では、今生わたしたちがいろいろな宗教に巡り合い、そしてい

ろいろな実践を行なうのはなぜでしょうか。それは、先程述べた過去世の経験の構成によって決定されるといって過言ではないでしょう。例えば、ものの考え方において、過去世・現世・来世があるという教えを前生から受けた場合、今生はとうぜん、その教えにぶつかったとき、独特のインスピレーションを生じさせます。そしてこれこそ、わたしの求めていた教えであると理解するようになるのです。

そしてもう1歩進んで、例えばそこで、「その過去世・現世・来世という三つのカテゴリーは物質的世界にすぎず、この物質的世界は、わたしたちが特別な瞑想を行ない、離脱することにより、完全に解放され得る世界である」――つまり、解脱の思想がその人の中に存在するならば、とうぜんその人は次の段階で、解脱を含む修行へと導かれることになります。

そして、その人が例えば自己の解脱、それを超えた上で、多くの人たちにその教えを説かなければならないという思いが心の底からわいてくるとするならば、その人は過去世においてすでに個の解脱の経験があり、そして多くの衆生を済度した経験があるにほかなりません。

では、このような考え方を述べると、次にこのような反論をなさるかもしれない。「では、1回目はどうだったんだ」と。

そのとおり。経験も、それはちょうどコップの中に入れる水と同じように、少しずつ少しずつ蓄えられ、そして新しい進化を遂げることができるのです。それはちょうどエネルギーがある段階に達すると、核融合を起こすのと同じ理論に似ています。

では、その経験はどのような形で科学的に検証できるのか。

それはわたしたちの肉体の中に存在する管、つまりエネルギー

の流れの管、そしてエネルギー、そして意識の三つによってそれを証明することができるのです。そして今オウム真理教が真理と称し、証明しようとしているのはまさにこの、管、エネルギー、つまり風ですね、そして心滴、つまり、意識ですね、この三つの関係について研究しているということができるでしょう。そしてこの三つの関係が完全に解明されたならば、すべての魂が必ずや苦しみから解放され、そして神々に至ることは間違いないと思われます。

さあ、ロシアの皆さん、あなたもあなたの持っている素晴らしい知識とそして経験、これをぜひともこの精神的進化のために、わたしと一緒に使おうではありませんか。

＊弁証法

弁証法とは、一言でいえば「発展していく論理の運動」である。例えば、ひとつのコップの存在をこの弁証法を用いて説明するならば、次のようになる。

コップを上からのぞいてみれば、このコップは丸いという第1の＜断定＞「正」を行なうことができる。しかし、横から見たときには、このコップは丸いという第1の断定をやめて、このコップは長方形に見えるという新たな第2の＜反断定＞「反」を行なうだろう。そして、結局、この物体は丸い部分と長方形の部分からなる円筒形のコップであると結論する。「合」

このような、3つの断定の進行、つまり、発展していく論理の運動が起きたことになる。これが弁証法である。

《対談》低酸素状態での瞑想II

酸素濃度とその人体への影響 ——経典との一致

松原　それでは、今回は、まず前回の内容を少し振り返るところから始めたいと思います。

聖者ヴァジラティッサ　前回の説明にもあったように、あるクンダリニー・ヨーガの成就者は、最終酸素濃度に関して9.77%を記録しました。

聖者サンジャヤ　はい。ここでクンダリニー・ヨーガの成就者の5日間のチェンバー内の酸素濃度の変化と、一般人に対する酸素消費量の変化の表があるのでご覧ください。

→図1参照

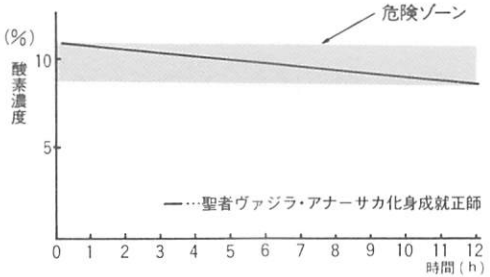
ここで申し上げておかなければならないことは、聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師の場合は、チェンバー内の温度が14度という低い温度で、たいへん不利な条件で瞑想を続けたことです。

つまり温度が低いために、体温を維持するために、多くの酸素を消費しなければならないということです。

松原　これを見ると、二酸化炭素濃度が高くなると酸素消費量が増えるようですね。

聖者サンジャヤ　そうですね。

図1　クンダリニー・ヨーガ成就者のチェンバー内の酸素濃度の変化



サマディ終了前12時間のチェンバー内の酸素濃度変化

図2　酸素濃度と症状

酸素濃度（%）	症　　状
16	頭痛、不安、呼吸・脈拍増加
14	視力障害、意識混濁、吐き気
12	筋けいれん、呼吸困難
10	顔面蒼白、意識不明
8	昏睡、8分で死亡
6	呼吸停止、即死

聖者ヴァジラティッサ　それではチェンバーの中の酸素濃度と、そのときの被験者の症状との関係を表わした表をご覧ください。

→図2参照

これによると9.77%前後の酸素濃度では意識不明に陥ったり、あるいはひょっとすると死んでしまうという可能性もあることを示しています。さらに密閉されたチェンバーでは、酸素が消費されて減るとともに二酸化炭素が増えますから、条件はさらに

厳しいといえます。

尊師　ところで、このデータというものは非常に重要なデータであるということができるでしょう。それはなぜかというと、例えばヨーガの経典である『ハタ・ヨーガ・プラディーピカー』や、あるいは『シヴァ・サンヒター』等にはこれと非常に似た記述が載っています。

→酸素濃度の医学的データとヨーガ経典

まずいちばんはじめに発汗が起きると。もちろんこの発汗が起きるときには心拍数の増大が起きます。そして次に視力障害が起きると。そしてその次にけいれんが起きると。そしてけいれんが起きた後に気絶すると。つまりこれはクンバカ、呼吸を長く止めるとどのような現象が起きるかということを表わした経典内容です。

ところで、もともと修行の目的というものは、死を克服する、つまり生と死の区切りを完全になくしてしまうということがポイントの一つとして挙げられます。そして完全に死を克服した場合、その魂はこの世にいながら未来世、および過去世について

＊酸素濃度の医学的データとヨーガ経典

『ハタ・ヨーガ・プラディーピカー』には、次のような記述がある。

「初級の調気においては発汗し、中級の調気においては戦慄が生じ、上級の調気においては不動の状態に達する。それゆえに気の抑制を練行しなければならない。

『ハタ・ヨーガ・プラディーピカー』
第２章　調気法（プラーナーヤーマ）　佐保田　鶴治より

多くの知識を得ることができるのです。そしてそのプロセスとしては先程も経典に載っている内容を説明しましたが、その経典の内容と、今回のこの医学的なデータとの間には相関関係があることが理解できます。

もちろんわたしがこの話をした理由はなぜかというと、ヨーガのプロセス、あるいは瞑想のプロセスは明らかに死へ至る道の予行演習を行なっているんだということを皆さんにお伝えしたかったからです。そしてこの気絶がない状態で、しっかりとした意識の状態で、先程述べた発汗、つまり心拍数の増大、そしてけいれん、そして呼吸停止といったプロセスを経験してこそ、初めてわたしたちは死を超えたことになるのです。

安全の二重保証
——物理的装置と尊師の超越神力

松原　ところでこのチェンバーの安全性についてはどうなのですか。

豊田　はい、それについては大丈夫です。と言いますのは、内部の酸素濃度は1分ごとに逐一アウトプットされます。しかも、内部状況は、インターホンによってチェックできます。そして、万が一の場合に備えて、内部には酸素ボンベが置かれています。

聖者サンジャヤ　また物理的な装置だけでなく、尊師の超越神力によっても危険を回避しています。例

えば、ある修行者がチェンバーに入っていたときに、酸素を多く消費し、チェンバー内の酸素濃度はたいへん低くなり、危険な状態になっていました。そして、まさに、その修行者が気絶しかけているときに、尊師からの連絡により、その修行者をチェンバーから出したことがありました。

また、次のようなこともありました。わたしがチェンバー内の酸素濃度をモニターしていましたが、そのとき、酸素濃度は以前のデータから判断するとたいへん低くなり、危険な状態にありました。そして、そのことを尊師にご報告申し上げようかと迷っていたときに、尊師から電話がかかってきたということがありました。このような例はこれまでいくらでもありました。

松原　現実の物理的装置と、それから尊師の超人的なインスピレーション。この二つがあるということを考えると、安全性の面では問題はないといっていいですね。

聖者サンジャヤ　そうですね。

成就の証明 ——低酸素での鮮明な意識状態

豊田　ところで尊師、質問があるのですが。

尊師　はい。

豊田　この「真理探究」の最初のほうで、サマディや酸素消費に関して話があったと思いますが、その

＊尊師の超越神力

尊師はその超越神力によって様々な奇跡を起こされる。その「奇跡」については枚挙にいとまがないほどである。次にその驚くべき「奇跡」の一例を挙げてみよう。

驚異の純粋観照智　　聖者マンジュシュリー・ミトラ供養値魂

エジプトでのことです。すごく暑いので気温の当てっこをしていたんです。

昼間はそうとう暑いエジプトも、夜になると急に涼しくなります。そこでわたしは言いました。

「だいぶ涼しくなりましたね。28度くらいじゃないですか。」

すると尊師は、

「いや、まだ37度はある。」

とおっしゃいます。そこで温度計で計ってみると、そのとおりなのです。

同じ日中でも風が吹いていないのと吹いているのとでは、気温の感じ方が変わります。わたしたちでしたら、すぐそうしたものに影響されてしまうのですが、尊師はそうした状況でもピタリと気温を言い当てられるのです。

車のスピードについてもそうでした。今、この車が何キロで走っているか、などということをずばり言い当ててしまわれるのです。

やはり、これもエジプトでのことですが、尊師のおっしゃる数値とスピードメーターの数値とが合わないのです。

「これはメーターがおかしいから、計ってみなさい。」

そう尊師はおっしゃるので、ストップウォッチと距離計で計ってみました。すると、5パーセントもメーターが狂っていたのです。

こうした体験というのは、他にもあります。

安いハチミツを見つけてきたら、水アメが混ざっていると見抜いてしまわれたり、回転焼きやお好み焼きの材料をすべて言い当てたり、甘味のもとが砂糖かサッカリンかがわかるとか、もうこれは究極のグルメです。

また、350と表示されていたジュースが、実際は300ミリリットルしかないのを当ててしまわれたりもしました。

時間についても正確です。「7時になったら起こしてくれ」と言われて、うっかり忘れてしまうときがあるのですが、「何時だ」と尊師に聞かれると、7時だったこともありました。

アストラル・テレポーターの作成のときは、こういうことがありました。

最初尊師は、コンピューターの「ビット」という言葉をご存じなかったのです。そこで、

「ビットというのは、電圧をいかに細かく分割するかを表わしています。」

と申し上げたのです。すると、
「そうか。64ビットまでいったら、電子1個1個がわかるようになるな。」
と尊師はおっしゃいます。そこでわたしが計算してみますと、確かに電子1個1個がわかるような数値が出てくるのです。
そもそも、アストラル世界という微細な世界を再現するのが、アストラル・テレポーターですから、粗雑な感じがあってはまずいのです。その64ビットという数値は、まさにわたしたちが必要としていたものだったのです。

『神通力　麻原彰晃は魅せた！』 オウム出版より

ときには、高いステージの者ほど煩悩が少なく、そして酸素消費量が少ないということでしたが、今回の場合、どのように考えればいいのですか。

尊師　この成就者は、特別な例だと考えられます。そのまず第1の理由は、極厳修行の期間が非常に短かったということ。

それから第2の理由は、ここは非常に重要なところだけども、オウム真理教のクンダリニー・ヨーガの成就者には4つの体験を義務づけています。それはまず第1にエネルギーが上昇すること、第2に光そのものに没入すること、第3に化身を出すこと、そして第4の意識の連続と。この意識の連続というものは最もステージの高い状態で現われるものです。で、そのステージの高い状態で現われる意識の連続の状態が、酸素濃度9.77という状態でもしっかりとした意識の状態でいられたということは、まさに成就者の認定にふさわしい、と考えました。

→成就の4つの条件

①エネルギーの上昇
②光への没入
③化身の体験
④意識の連続

ところで、ここで一つ追加しておかなければなら

ないことがある。それは、普通の修行者においては13%ぐらいから苦しくなり、そしてだいたい11%ぐらいで気絶の状態になる、ということが今までの実験で明らかになっています。したがって9.77の状態で普通の鮮明な意識状態にあったということは、彼がまさに成就していたということではないかといえるでしょう。

豊田　なるほど。わかりました。

成就のタイプの違い

松原　そうですか。もともと聖者ヴァジラ・アナーサカ到達光正師が、以前の成就者とは少し違うタイプの成就者であるという可能性はあるのですか。

尊師　修行者には4つのパターンがあります。それは功徳を重点的に積んでいるパターンと、善行を重点的に積んでいるパターン、そして、法則に従って、その法則の記憶修習によって達成しているパターンと、それから寂静によって達成しているパターンと。で、この寂静のパターンと、法則の記憶修習によって達成しているパターンの間に、成就者としてのタイプの違いが考えられる。例えば、寂静の修行を行なっている場合、酸素消費は非常に少ないということになります。しかしもし、心に乱れが生じ、酸素消費が多くなったときに、その魂が、例えば低酸素の状態で存在できるかどうかについてはまだ

実験していないと。しかし、彼は消費は多いが、低酸素の状態になったときにも平然としていられるだけの意識の鮮明さ・意志の強さというものを持っています。明らかに成就のタイプが違うということができるでしょう。

松原　ありがとうございました。締めくくりとして、尊師のほうから何かコメントをいただけますか。

死のプロセスを理解すること

尊師　今回の話でもわかるとおり、修行を行なうということはわたしたちの意識の鮮明さを増し、そして呼吸がどんどん弱くなっていく、つまり死の直前の状態でもはっきりとした意識状態でその部分を通過することができるということが証明されたと思います。そしてこれは、わたしたちが生から死へ至るプロセスにおいて、正しい判断をする上において欠くことのできない条件です。したがって皆さんも、必ず人間は死ぬわけですから、その死の前に、死のプロセスをすべて理解していただきたいものです。

参考文献

『生死を超える』　麻原彰晃尊師　オウム出版
『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』　麻原彰晃尊師　オウム出版
『超能力秘密のカリキュラム　健康編』　麻原彰晃尊師　オウム出版
『STEP　TO　真理』　オウム出版
『ザ・サマディ』　オウム出版
『超越神力【天耳通・他心通】』　麻原彰晃尊師　オウム出版
『神通力　麻原彰晃は魅せた！』　オウム出版
『キリスト宣言』　麻原彰晃尊師　オウム出版
『キリスト宣言3』　麻原彰晃尊師　オウム出版
『ヨーガ根本経典』　佐保田　鶴治　平河出版
『ハーパー・生化学』　上代淑人　監訳　丸善
『ローン生化学』　J. David Roan著　長野　敬　吉田　賢右監訳　医学書院
『教養のための　図説生物学』　井上　清恒　富樫　裕　　実教出版
『教養のための　図説生化学』　紺野　邦夫　竹田　稔　富樫　裕　実教出版
『賢い脳の作り方　BRAIN　SCIENCE』　講談社Quark編集部　講談社
『NHKサイエンススペシャル　驚異の小宇宙　人体　1　生命誕生』
日本放送協会
『発生生物学　上　分子から形態進化まで』　スコットF. ギルバート著
塩川光一郎　深町博史　東中川徹　訳
『生物学資料集』　生物学資料集委員会編　東京大学出版会
『脊椎動物の発生　上』　岡田節人編　倍風館
『生まれる』　レナート・ニルソン写真　松山栄吉 訳　講談社
『ヒト胎児発育カラーアトラス』　藤本十四秋監訳　南江堂
『THE GREAT ECONOMISTS SERIES⑥　喧嘩屋マルクス』
ナガイ ケイ著　富士書房
『現代世界百科大事典』　講談社

何千人ものロシア人のクンダリニーを集団覚醒させた

麻原尊師の率いるオウム真理教のセミナー

広大な北の国ロシア。奇跡はこの極寒の地で起きた。

それは信じられない光景だった。クンダリニー覚醒の印であるダルドリー・シッディ（クンダリニーのエネルギーによって体が飛び跳ねたり、振動すること）を何千人ものロシアの人々がいっせいに起こし始めたのだ。会場全体が、波打つように揺らめいていた。何十年もかかるといわれるクンダリニーの覚醒。それがこれほどいとも簡単に起こるとは。そして、その覚醒は麻原尊師によってもたらされたのである。

あなたはクンダリニーを知っているだろうか。それは人間の身体に眠る霊的エネルギーである。このエネルギーを覚醒させた人間は強大なエネルギーと神通力を身につけ、「超人類」として「進化」することができる。

セミナー体験談

・瞑想中、意識と光の粒が自分に流れてくるような、大きな時の流れのような感覚があり、とても幻想的だった。

・クンダリニーが上昇し、頭頂からしびれと快感が下降した。気は上がりっぱなしだった。

★セミナーのお知らせ

すべてを知り尽くした最終解脱者、麻原彰晃尊師が、数多くの技法の中から厳選した、忙しい現代人に最も適したクンダリニー覚醒のための修行法を体験できるセミナーを開催しています。

●無料体験セミナー（ワークショップ）

呼吸、アーサナ、気功などの初歩的な修行法を紹介し、皆さんに実践してもらう無料のセミナーです。気軽にご参加ください。

●80%クンダリニーを覚醒させるセミナー（ワークショップ）

文字どおり、参加者の80%以上のクンダリニーを覚醒させるセミナー（ワークショップ）です。

セミナー（ワークショップ）に興味のある方は添付のハガキで資料を請求くださるか、下記までお問い合わせください。

問い合わせ先　TEL　03−3148−4147　FAX　03−3418−6794

★『生死を超える』無料プレゼント

本文にも登場した吉本隆明氏絶賛の『生死を超える』を添付のハガキを送ってくださった方に無料でプレゼントいたします。

あの名著がグレードアップ！

増補改訂版

生死を超える

麻原彰晃尊師の不朽の大ベストセラー『生死を超える』が、新しく増補改訂して登場！

麻原尊師の教えに導かれ、生死を超えて解脱した四十八名の弟子の体験談を、解脱へのプロセスに沿って掲載した。

最聖　麻原彰晃尊師著

B6判　定価1800円

オウム出版　本　社　〒154 東京都世田谷区世田谷2－8－17 TEL03（3439）6043 振替 東京2－109325
営業部　〒168 東京都杉並区宮前3－8－11 TEL 03（5370）1598

この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『麻原彰晃の真理探究シリーズ』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
オウム出版「『麻原彰晃の真理探究シリーズ』読者係」

◆本部・各支部ご案内◆
富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京総本部　03(5467)2745
〒107　東京都港区南青山7-5-12　マハーボーシャビル2-3F
世田谷道場　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
杉並道場 03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081-5
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
横浜支部　045(243)8079
〒231 神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
福井支部　0776(26)6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
大阪支部　06(251)4264
〒541　大阪府大阪市中央区久太郎町3-2-15 マルイビル2F
堺支部　0722(21)1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山洒販会館2F
広島支部　082(264)7252
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
那覇支部　098 (866) 9537
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
深谷出張所　0485(74)8143
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
（海外支部）
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, 53121 Bonn, S.R.Germany
スリランカ支部（AUM SACCA SAÑGHA ASSOCIATION）
Horahena, Watte, Angulugaha, Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　7-095-455-95-32
Kindergarten No.468, 32A Petrozavodskaya ul. Moscow, 125475 Russia

麻原彰晃の真理探究シリーズ①
検証　死（サマディ）
人類進化の鍵をにぎる究極の瞑想状態

1994年1月24日初版発行
定　価　980円（本体951円）
監　修　真理の御魂 最聖 麻原彰晃尊師
編　集　真理科学技術研究所
発行者　松本知子
　　石井久子
発行所　株式会社オウム
　　〒154　東京都世田谷区世田谷2－8－17
　　電話　03(3439)6042　　振替　東京2－109325
　　乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

© His Holiness the Master, Shoko Asahara　1993

ISBN4-87142-090-6　C0042　P980E